

平成28年度

印西市内遺跡発掘調査報告書

2018

印西市教育委員会

例 言

1. 本書は、平成28年度国庫補助金を受けて、市内遺跡所在確認調査として実施した新井堀Ⅱ遺跡、和田谷第4遺跡、手倉野馬堀、古井戸後遺跡（第2地点）、木橋第1遺跡、井ノ崎台遺跡（第3地点）、大畑遺跡（第4地点）、南ノ内遺跡、古井戸後遺跡（第3地点）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、印西市教育委員会が実施し、整理作業と原稿執筆は、印西市より委託を受けて公益財団法人印旛郡市文化財センターが実施した。
3. 調査組織は以下のとおりである。

●発掘調査（平成28年度）

調査主体者	大木 弘	印西市教育委員会教育長
調査事務	飯島伸一	印西市教育委員会生涯学習課長
	鈴木圭一	印西市教育委員会生涯学習課文化班副主幹
	根本岳史	印西市教育委員会生涯学習課文化班主任学芸員
	渡邊真央	印西市教育委員会生涯学習課文化班主任主事

●整理作業・原稿執筆（平成29年度）

調査主体者	大木 弘	印西市教育委員会教育長
調査事務	飯島伸一	印西市教育委員会生涯学習課長
	北林泰子	印西市教育委員会生涯学習課文化班主査
	根本岳史	印西市教育委員会生涯学習課文化班主任学芸員
調査受託者	茅野達也	公益財団法人印旛郡市文化財センター代表理事
整理担当者	喜多裕明	公益財団法人印旛郡市文化財センター調査課主幹兼庶務課長

4. 発掘調査は平成28年度に実施した。以下、(1) 所在地、(2) 調査の種別、調査面積、調査期間、(3) 調査担当者、(4) 調査に至る経緯について概要を記す。

新井堀Ⅱ遺跡（コード番号09-107）

- (1) 千葉県印西市草深字新井堀230番2の一部 (2) 確認調査・上層36㎡/307.01㎡・平成28年4月19日
- (3) 根本岳史 (4) 個人住宅建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

和田谷第4遺跡（コード番号09-108）

- (1) 千葉県印西市萩原字権現堂2011番4の一部 (2) 確認調査・上層19.5㎡/159.1㎡・平成28年4月20日
- (3) 根本岳史 (4) 農業用倉庫建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

手倉野馬堀（コード番号09-109）

- (1) 千葉県印西市高西新田字原新田239番1、239番2 (2) 確認調査・上層157㎡/1,289㎡・平成28年12月1日～平成28年12月3日 (3) 根本岳史 (4) 自動車解体施設建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

古井戸後遺跡（第2地点）（コード番号09-110）

- (1) 千葉県印西市平賀字古井戸後843番2 (2) 確認調査・上層17㎡/90.25㎡・平成28年12月5日 (3) 根

本岳史 (4) 個人住宅建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

木橋第1遺跡 (コード番号09-111)

(1) 千葉県印西市吉高字木橋462番 (2) 確認調査・上層71.5㎡/571㎡・平成28年12月15日 (3) 根本岳史

(4) 携帯電話無線基地局建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

井ノ崎台遺跡 (第3地点) (コード番号09-112)

(1) 千葉県印西市平賀字井ノ崎台822番1 (2) 確認調査・上層22㎡/169㎡・平成29年1月18日 (3) 根本岳史

(4) 個人住宅建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するため確認調査を実施した。

大畑遺跡 (第4地点) (コード番号09-113)

(1) 千葉県印西市大森字森内1970番2 (2) 確認調査・上層51㎡/233.50㎡・平成29年1月24日 (3) 根本岳史

(4) 個人住宅建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

南ノ内遺跡 (コード番号09-114)

(1) 千葉県印西市荒野字南ノ内574番の一部 (2) 確認調査・上層49㎡/450.36㎡・平成29年1月31日 (3) 根本岳史 (4) 個人住宅建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するため確認調査を実施した。

古井戸後遺跡 (第3地点) (コード番号09-115)

(1) 千葉県印西市平賀字古井戸後858番1、859番3 (2) 確認調査・上層83.5㎡/491㎡・平成29年3月1日 (3) 根本岳史 (4) 個人住宅建設に先立って文化財保護法第93条が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するため確認調査を実施した。

5. 整理作業、報告書原稿作成ならびに印刷製本は、平成29年度国庫補助、県費補助事業として実施した。
6. 本書は、例言4. (4) を印西市教育委員会生涯学習課根本岳史、その他を公益財団法人印旛郡市文化財センター喜多裕明が執筆し、編集は2名共同で行った。
7. 本書で使用した写真は、遺構は調査担当者、遺物は杉原豊氏 (有限会社スギハラ) が撮影した。
8. 出土遺物及び図面・写真は、印西市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査から報告書まで、下記の機関等にご教示を賜った。(敬称略・順不同)
文化庁 千葉県教育庁教育振興部文化財課 印西市教育委員会生涯学習課

凡 例

1. トレンチ番号等は、発掘調査時のものを使用している。
2. 第1図～第5図は国土地理院発行の1/25,000『白井』、『小林』、『酒々井』、『成田』を、各遺跡の位置図は1/2,500『印西市地形図』を使用している。
3. トレンチ配置図及び全体図のスクリーンの用例は以下のとおりである。その他は各図、文中に示している。



攪乱



竪穴住居跡



近世野馬堀

4. 方位は磁北を示している。
5. 挿図中の縮尺は以下を原則としているが、詳細は個々にスケールを参照されたい。
トレンチ配置図は1/200、1/400、1/80 遺物は以下のとおりである。
縄文土器・墨書土器・砥石・1/3
土師器坏・甕・須恵器甕・刀子1/4
土製品1/2
6. 出土遺物の出土地点については、挿図の遺物番号脇に記載している。

本文目次

第1章	周辺の遺跡	1
第2章	新井堀Ⅱ遺跡	8
第3章	和田谷第4遺跡	8
第4章	手倉野馬堀	10
第5章	古井戸後遺跡（第2地点）	14
第6章	木橋第1遺跡	14
第7章	井ノ崎台遺跡（第3地点）	14
第8章	大畑遺跡（第4地点）	14
第9章	南ノ内遺跡	15
第10章	古井戸後遺跡（第3地点）	16
第11章	まとめ	20

挿図目次

第1図	周辺の遺跡（1）	2	第15図	木橋第1遺跡位置図	15
第2図	周辺の遺跡（2）	2	第16図	木橋第1遺跡全体図及び出土遺物	15
第3図	周辺の遺跡（3）	4	第17図	井ノ崎台遺跡（第3地点）位置図	16
第4図	周辺の遺跡（4）	4	第18図	井ノ崎台遺跡（第3地点）全体図	16
第5図	周辺の遺跡（5）	8	第19図	大畑遺跡（第4地点）位置図	17
第6図	新井堀Ⅱ遺跡位置図	9	第20図	大畑遺跡（第4地点）全体図及び 出土遺物	17
第7図	新井堀Ⅱ遺跡全体図及び出土遺物	9	第21図	南ノ内遺跡位置図	18
第8図	和田谷第4遺跡位置図	10	第22図	南ノ内遺跡全体図	18
第9図	和田谷第4遺跡全体図及び出土遺物	11	第23図	古井戸後遺跡（第3地点）位置図	19
第10図	手倉野馬堀位置図	12	第24図	古井戸後遺跡（第3地点）全体図及び 出土遺物	19
第11図	手倉野馬堀全体図	12			
第12図	手倉野馬堀出土遺物	13			
第13図	古井戸後遺跡（第2地点）位置図	13			
第14図	古井戸後遺跡（第2地点）全体図及び 出土遺物	13			

表目次

第1表	遺跡地名表	6
-----	-------	---

写真図版目次

- | | | | |
|------|-----------------------|------|-------------------------|
| 図版 1 | 1. 新井堀Ⅱ遺跡トレンチ掘削状況 | 図版 6 | 1. 木橋第1遺跡3号トレンチ |
| | 2. 新井堀Ⅱ遺跡1号トレンチ | | 2. 木橋第1遺跡4号トレンチ |
| | 3. 新井堀Ⅱ遺跡2号トレンチ | | 3. 木橋第1遺跡5号トレンチ |
| | 4. 新井堀Ⅱ遺跡3号トレンチ | | 4. 木橋第1遺跡6号トレンチ |
| | 5. 新井堀Ⅱ遺跡4号トレンチ | | 5. 木橋第1遺跡7号トレンチ |
| | 6. 新井堀Ⅱ遺跡5号トレンチ | | 6. 木橋第1遺跡埋戻し状況 |
| | 7. 新井堀Ⅱ遺跡6号トレンチ | | 7. 井ノ崎台遺跡(第3地点)作業風景 |
| | 8. 和田谷第4遺跡トレンチ掘削状況 | | 8. 井ノ崎台遺跡(第3地点)1号トレンチ |
| 図版 2 | 1. 和田谷第4遺跡作業風景 | 図版 7 | 1. 井ノ崎台遺跡(第3地点)2号トレンチ |
| | 2. 和田谷第4遺跡1号トレンチ | | 2. 井ノ崎台遺跡(第3地点)3号トレンチ |
| | 3. 和田谷第4遺跡2号トレンチ | | 3. 井ノ崎台遺跡(第3地点)4号トレンチ |
| | 4. 和田谷第4遺跡3号トレンチ | | 4. 井ノ崎台遺跡(第3地点)5号トレンチ |
| | 5. 和田谷第4遺跡4号トレンチ | | 5. 井ノ崎台遺跡(第3地点)6号トレンチ |
| | 6. 和田谷第4遺跡5号トレンチ | | 6. 井ノ崎台遺跡(第3地点)埋戻し状況 |
| | 7. 和田谷第4遺跡6号トレンチ | | 7. 大畑遺跡(第4地点)トレンチ掘削状況 |
| | 8. 和田谷第4遺跡埋戻し状況 | | 8. 大畑遺跡(第4地点)作業風景 |
| 図版 3 | 1. 手倉野馬堀トレンチ掘削状況 | 図版 8 | 1. 大畑遺跡(第4地点)1号トレンチ |
| | 2. 手倉野馬堀作業風景 | | 2. 大畑遺跡(第4地点)2号トレンチ |
| | 3. 手倉野馬堀1号トレンチ | | 3. 大畑遺跡(第4地点)3号トレンチ |
| | 4. 手倉野馬堀2号トレンチ | | 4. 大畑遺跡(第4地点)4号トレンチ |
| | 5. 手倉野馬堀3号トレンチ | | 5. 大畑遺跡(第4地点)5号トレンチ |
| | 6. 手倉野馬堀4号トレンチ | | 6. 大畑遺跡(第4地点)6号トレンチ |
| | 7. 手倉野馬堀5号トレンチ | | 7. 大畑遺跡(第4地点)埋戻し状況 |
| | 8. 手倉野馬堀6号トレンチ | | 8. 南ノ内遺跡トレンチ掘削状況 |
| 図版 4 | 1. 手倉野馬堀7号トレンチ | 図版 9 | 1. 南ノ内遺跡作業風景 |
| | 2. 手倉野馬堀8号トレンチ | | 2. 南ノ内遺跡1号トレンチ |
| | 3. 手倉野馬堀9号トレンチ(1) | | 3. 南ノ内遺跡2号トレンチ |
| | 4. 手倉野馬堀9号トレンチ(2) | | 4. 南ノ内遺跡3号トレンチ |
| | 5. 手倉野馬堀埋戻し状況 | | 5. 南ノ内遺跡4号トレンチ |
| | 6. 古井戸後遺跡(第2地点)作業風景 | | 6. 南ノ内遺跡5号トレンチ |
| | 7. 古井戸後遺跡(第2地点)1号トレンチ | | 7. 南ノ内遺跡6号トレンチ |
| | 8. 古井戸後遺跡(第2地点)2号トレンチ | | 8. 南ノ内遺跡7号トレンチ |
| 図版 5 | 1. 古井戸後遺跡(第2地点)3号トレンチ | 図版10 | 1. 南ノ内遺跡8号トレンチ |
| | 2. 古井戸後遺跡(第2地点)4号トレンチ | | 2. 南ノ内遺跡埋戻し状況 |
| | 3. 古井戸後遺跡(第2地点)5号トレンチ | | 3. 古井戸後遺跡(第3地点)トレンチ掘削状況 |
| | 4. 古井戸後遺跡(第2地点)6号トレンチ | | 4. 古井戸後遺跡(第3地点)作業風景 |
| | 5. 古井戸後遺跡(第2地点)埋戻し状況 | | 5. 古井戸後遺跡(第3地点)1号トレンチ |
| | 6. 木橋第1遺跡トレンチ掘削状況 | | 6. 古井戸後遺跡(第3地点)2号トレンチ |
| | 7. 木橋第1遺跡1号トレンチ | | 7. 古井戸後遺跡(第3地点)2号トレンチ |
| | 8. 木橋第1遺跡2号トレンチ | | |

住居検出状況

- 図版11
8. 古井戸後遺跡（第3地点）3号トレンチ
 1. 古井戸後遺跡（第3地点）4号トレンチ
 2. 古井戸後遺跡（第3地点）5号トレンチ
 3. 古井戸後遺跡（第3地点）6号トレンチ
 4. 古井戸後遺跡（第3地点）7号トレンチ
 5. 古井戸後遺跡（第3地点）8号トレンチ
 6. 古井戸後遺跡（第3地点）9号トレンチ
 7. 古井戸後遺跡（第3地点）10号トレンチ
 8. 古井戸後遺跡（第3地点）埋戻し状況

図版12 各遺跡出土遺物（1）

図版13 各遺跡出土遺物（2）

第1章 周辺の遺跡

本書で取扱う遺跡の位置が広範であるため、対象遺跡を中心に関連する遺跡を第1図から第5図に示した。(1)は新井堀Ⅱ遺跡である。平成28年度の調査では、縄文時代早期と後期の土器が僅かに出土したのみであった。関連するところでは財団法人千葉県文化財センターが、松崎地区内陸工業用地造成整備事業に先立って調査を行った、松崎Ⅱ遺跡(2)、松崎Ⅲ遺跡(3)、松崎Ⅵ遺跡(4)が近接する。松崎Ⅱ遺跡では縄文時代中期中葉から後期前葉の包含層が検出している。松崎Ⅲ遺跡では、早期の住居跡4軒の他に炉穴群36基や土坑2基が確認された。松崎Ⅵ遺跡では、縄文時代早期撚糸文、条痕文の土器群を中心に中期～後期に相当する竪穴状遺構1基と土坑2基が検出している。三郷遺跡(7)は、遺構は検出していないが、加曽利E式の出土をみている。そこから南側に所在する三郷台遺跡(6)に調査事例はないが、同一台地上に位置しているため同様の内容となろうか。前戸遺跡(8)は、財団法人印旛郡市文化財センターや千葉県文化財センター及び印西市(第2・3地点)による調査実績がある。縄文時代に関しては印旛郡市文化財センターによる調査で陥穴が1基検出し、千葉県文化財センターの調査では加曽利E式の土器が少量出土したのみであった。このため周辺は総じて該期の遺構、遺物は少ない地域であると言えよう。中郷遺跡(9)は、過年度に3地点にわたって調査を実施しているが、やはり該期のまとまった遺構、遺物の検出はみえていない。船尾貝塚(10)、坊山遺跡(11)が早期茅山期を主体とするので、縄文時代の中心は地理的に有利であった南西台地縁辺になると思われる。第2図は、南ノ内遺跡(12)と和田谷第4遺跡(21)及び木橋第1遺跡(35)に関連する遺跡を示した。各遺跡は分布地図上、縄文時代から奈良・平安時代を主とする遺跡として搭載されているが、平成28年度の調査では攪乱のため、まとまった遺構、遺物は検出しなかった。和田谷第4遺跡も遺構に関しては同様の状況であったが、少量の縄文時代早期の遺物が出土している。木橋第1遺跡も遺構は検出せず、縄文時代後期の土器が少量出土した。まず、南ノ内遺跡周辺であるが遺跡の数もそれほど多くなく、全体に希薄な状態を示している。また、周辺調査事例では、縄文時代早期の撚糸文土器を出土した雨古瀬遺跡(15)があげられる。井草式直前とした土器が目された。角田台遺跡(16)は、旧石器時代の石刃と槍先形尖頭器を中心とする石器群を出土したことで著名となり、その後の調査でも弥生時代の集落や奈良・平安時代の土坑から「匝瑳郡…」を記載する多文字墨書土器が出土したほか、近世の野馬土手に至るまでの複合遺跡であることが判明した。式ト込遺跡(17)は、旧石器時代の石器集中箇所1地点及び縄文時代早期の炉穴や該期の包含層、弥生時代の住居の他に古墳時代から奈良・平安時代の住居跡や中近世の遺構が検出している。荒ク遺跡(18)は、槍先形尖頭器を含む石器集中箇所1カ所の他に縄文時代の陥穴1基、早期沈線文、前期後半の土器、中期加曽利EⅡ式や後期堀之内式が出土している。柳谷遺跡(19)は、千葉県文化財センターが調査を行っているが、遺構は検出せず、加曽利EⅡ式、後期称名寺式、加曽利B式、安行2式が少量出土しているのみである。その他、荒野遺跡(13)は縄文時代前期とされている遺跡で、酒塚古墳(14)は1辺20mを測る方墳となっている。台地中央部に移って、和田谷第4遺跡を中心とする周辺遺跡であるが、全体的に北側縁辺部に遺跡が所在する傾向を示している。出戸遺跡(20)は、千葉県文化財センターにより塚7基が調査され、そのうち、4号塚からは寛永通宝と文久永宝の古銭と槍先が出土している。また、封土中から加曽利E式とB式の縄文土器が出土している。株木遺跡(26)は、印旛郡市文化財センターによって調査され、縄文時代は陥穴2基と焼土跡3基のほか、早期沈線文、条痕文、中期加曽利EⅣ式などが出土した。他の時代では弥生時代後期の住居跡2軒、削平されていたが6世紀初頭から中葉の円墳2基、奈良・平安時代の住居跡2軒、方形周溝状遺構1基、土坑3基、中世では空堀、土塁の内側から掘立柱建物跡2棟や土壙墓6基を確認し、緑釉小皿の出土等から15世紀代の単郭構成による城館跡であることが判明している。周辺では萩原遺跡(27)でも縄文時代の陥穴1基の他に中世の地下式坑2基、台地整形区画1カ



第1図 周辺の遺跡 (1)



第2図 周辺の遺跡 (2)

所、土坑5基などが検出している。中でも地下式坑1基からは短刀が出土しており、その性格には注意が必要である。萩原長原遺跡(31)は、弥生時代後期を主とする集落であるが、縄文時代中期末葉から晩期の土器も出土している。丑むぐり遺跡(33)は、希薄な遺跡ではあるが、千葉県文化財センターの調査では、加曽利E式の住居跡1軒と中期から後期にかけての土器が少量出土している。吉高大谷遺跡(40)は、縄文時代の沈線文土器のほか、弥生時代後期から奈良・平安時代の住居跡が検出している。その他、和田谷第1遺跡(25)、和田谷第2遺跡(24)、和田谷第3遺跡(23)、山中台遺跡(22)、城内遺跡(28)、辺田谷第3遺跡(29)、権現堂遺跡(30)は縄文時代から奈良・平安時代を主とする遺跡、絡谷遺跡(32)は古墳時代と奈良・平安時代を主に、松虫陣屋跡(34)は、郭、腰曲輪、土塁、櫓台、虎口、堀を有する戦国時代後期の陣屋跡として著名であり、栗林義長陣城と伝えられる。次に台地東側の木橋第1遺跡を中心とするエリアであるが、周辺に具体的な調査事例がない。詳細は将来的な調査に期待するほかないが、古木戸第1遺跡(43)、古木戸第2遺跡(42)、向田遺跡(41)、木橋第2遺跡(36)、堀尻第2遺跡(37)は縄文時代から奈良・平安時代を主とする遺跡、堀尻第1遺跡(38)、大竹遺跡(39)は古墳時代と奈良・平安時代を中心とする遺跡となっている。第3図は手倉野馬堀(44)の周辺を示した。平成28年度調査では、奈良・平安時代の住居跡2軒の他に近世野馬堀が1条検出した。周辺の調査事例は極めて少ない。竜崖遺跡(54)は、印西市によって調査された。縄文時代は早期の鵜ガ島台式のほか貝殻条痕文土器や後期の称名寺式が出土している。奈良・平安時代は土師器、須恵器、中世の溝状遺構が1条検出した。南山遺跡(52)は昭和57年に調査され、弥生時代から奈良・平安時代の住居跡のほか、羽口やスラグが出土し、鍛冶関連の遺跡と思われる。その他分布地図によると、手倉砦跡(45)は、連郭や土塁が所在し、城館跡とされているが、牧関連の施設としての性格が与えられている。手倉山野野馬堀(46)は、堀を有し、牧跡とされる。黒田遺跡(47)は、平安時代の土師器が出土する包蔵地、原新田遺跡(48)は縄文時代早期から古墳時代前期、平安時代の包蔵地である。寺山遺跡(49)、正砂台遺跡(50)、物見台遺跡(51)も同様。竜崖城跡(53)は多郭、土塁、空堀を備えた中世の城館跡とされる。宮作遺跡(55)は平安時代の包蔵地である。第4図は井ノ崎台遺跡第3地点(58)、古井戸後遺跡(第2地点)(61)を中心とする遺跡を示した。本遺跡周辺は古墳群や古墳時代後期が集中する濃密な地域であるが、本書に関連する遺跡のみ図示している。平成28年度調査では、井ノ崎台遺跡(第3地点)からはまとまった遺構、遺物は検出せず、古井戸後遺跡(第2地点)からは奈良・平安時代に比定される土錘1点と刀子の小片が出土した。(56)は天神古墳で、径5m×高さ0.5mの円墳である。(57)は天神遺跡で印旛郡市文化財センターによって調査されている。縄文時代の炉穴4基、古墳時代後期の土坑1基、奈良・平安時代の住居跡3軒、土坑10基、中近世の溝が4条検出している。(59)周辺は勸堂古墳群で2基の前方後円墳と15基の円墳を擁する。惣行遺跡(60)は、平賀遺跡群として遺跡調査会での先鞭としての調査と印旛郡市文化財センターによる調査事例がある。いずれも縄文時代から近世にわたる複合遺跡であり、奈良・平安時代を主とする。古井戸原第1遺跡(62)は弥生時代から奈良・平安時代を主体とする集落である。遺跡範囲に6基の古墳を擁する古井戸原古墳群が所在する。昭和35年に調査され、概ね6世紀代の埴輪を有する古墳である。油作第1遺跡(63)、同第2遺跡(64)は、やはり平賀遺跡群として古くから調査の実績があり、特に第2で出土した子持ち勾玉は注目に値する。両遺跡とも旧石器時代から中近世までの複合遺跡であるが、古墳時代後期の住居軒数が100軒以上と突出している。駒込遺跡(65)も同様で、該期の住居跡が59軒検出している。因みに保存地域にも集落は展開しているため、最終的には100軒以上の住居軒数になることも想定される。同じ平賀遺跡群でも仲ノ台遺跡(66)は、弥生、古墳時代前期の住居跡がそれぞれ9軒の検出となっているので、時代ごとに占拠が異なることが想定される。一ノ台遺跡(67)も弥生時代後期の住居跡10軒、古墳時代前期7軒、中期23軒となっているので傾向は仲ノ台と変わらないのであろう。



第3図 周辺の遺跡 (3)



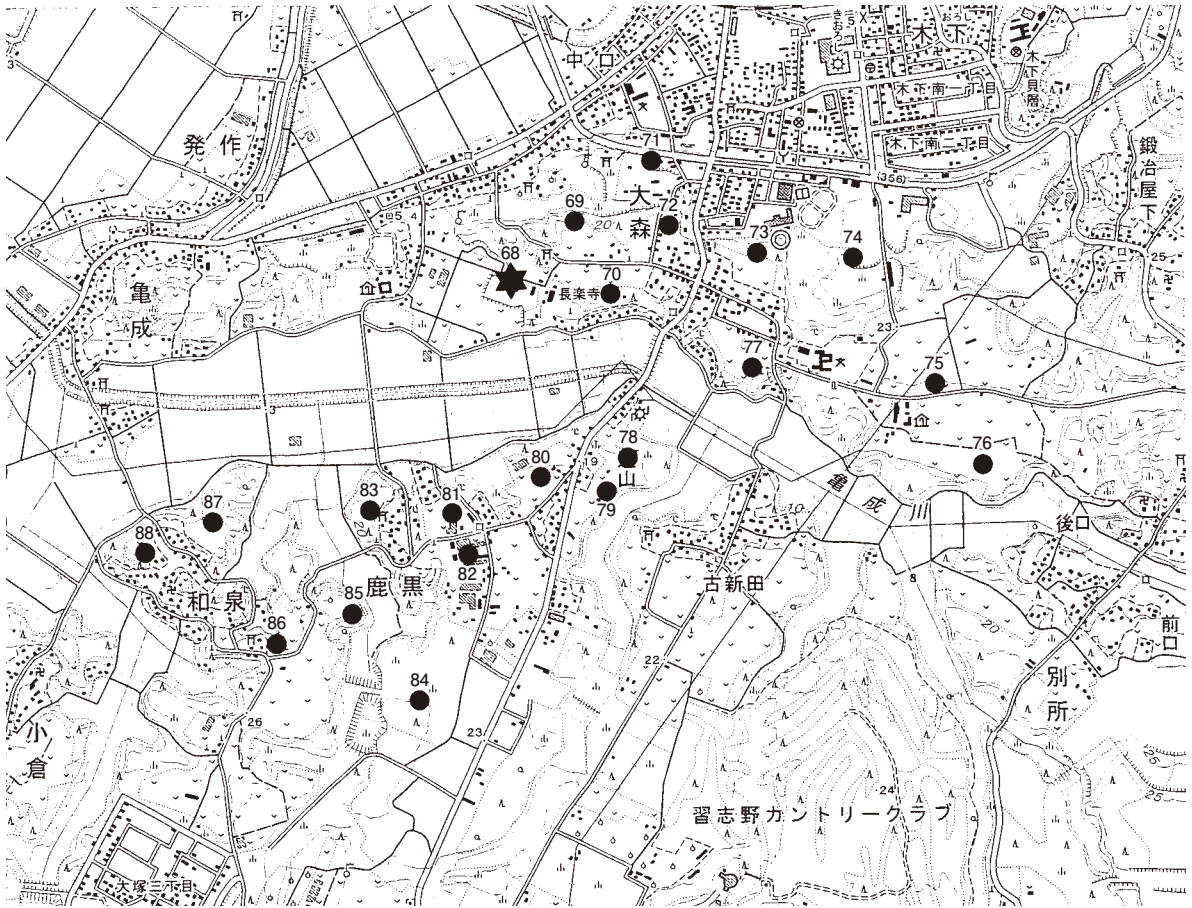
第4図 周辺の遺跡 (4)

第5図は大畑遺跡(68)の周辺遺跡を図示した。半島状に突き出した台地の基部に遺跡が集中する。平成28年度調査では遺構は検出しなかった。分布地図上は縄文時代から奈良・平安時代の包蔵地及び集落の扱いとなっている。本遺跡の東側には古墳が所在する。(69)は径15mの円墳で横穴式石室を有する森内古墳、(70)は全長35mの前方後円墳で横穴式石室を有する大森古墳である。(71)は昭和49年に土砂採取の際に崖面の石室露出により発見され、緊急調査の結果、円墳2基で構成されると判明した後庵山古墳群、(72)は印西市指定史跡である上宿古墳である。昭和47年に調査され、貝化石の石材で構築された横穴式石室で須恵器、鉄器、人骨などが出土したが、墳丘の削平のため詳細な規模は分かっていない。類似した古墳は栄町の国史跡龍角寺古墳群中の岩屋古墳等に認められることから、平成19年度に印西市により石室前庭部周辺のトレンチ調査が行われたが周溝の発見には至っていない。方墳と推定される。一連の古墳群は形状と石室から6世紀後半から7世紀代の所産と考えられ、他地域の群集墳増加の時期に相当するが、基数的には少ない感がある。多くが削平されているとすれば、今後の調査の進捗次第では周溝等の発見も期待できるのではないだろうか。(73)は本書とは直接の関係がないが著名であるので取り上げた。大森陣屋跡である。土塁を有し、近世の淀藩飛地領陣屋跡とされる。次に関連する遺跡に戻る。曾谷窪遺跡(74)は、印旛郡市文化財センターと千葉県教育振興財団によって調査されている。前者の調査は、9世紀から10世紀中葉に営まれた集落で、製鉄関連遺構が検出している点から精錬鍛冶から鍛錬鍛冶を行い、農耕具を製作のうえ天神台遺跡に供給していたと推論している。県教育振興財団の調査でも弥生時代の住居跡の他、やはり製鉄関連遺構が検出している。また、6号住居からは瓦が出土し、曾谷ノ窪瓦窯で焼成したものであろうとしている。それらに関連する天神台遺跡(75)は、古くは昭和35年に早稲田大学によって調査され、7ヵ所の地点貝塚を発見した後、その後の調査で中期から後晩期にかけての大規模な縄文時代の大集落だけではなく、弥生時代から奈良・平安時代にわたる複合遺跡であることが判明した。また、木下別所廃寺(76)にも近く、山田寺系の軒丸瓦が出土していることから当地域の中では一大拠点であったことが分かる。八夜台遺跡(77)もその影響下にあると思われ、第2地点の平安時代の住居跡から瓦の出土をみている。割野遺跡(79)は、円墳を擁する遺跡で千葉県文化財センターにより古墳以外の調査が行われている。縄文時代は少量の加曾利B3式の土器片のみであるが、近世のシシ穴列や溝、割野所在野馬土手では堀を伴わない特殊な遺構が検出している。迎山遺跡(80)は印西市によって調査され、古墳時代前期の住居跡が2軒検出した。鹿黒堀込遺跡(81)は、弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡とされるが、周辺の鹿黒遺跡の調査を行った千葉県教育振興財団の成果では、縄文時代前期から後期の土器の微量な出土に留まっている。その他、分布地図上では三高台遺跡(78)は縄文時代中期から古墳時代後期の包蔵地、アラク山遺跡(82)は奈良・平安時代の包蔵地、入谷津遺跡(83)も同様、新山北遺跡(84)は旧石器を含む古墳時代前期の集落跡、和泉砦跡(85)は縄文時代早期を含む中世の土塁が確認されている。近隣には和泉古墳(86)(円墳)が所在する。沖ノ台遺跡(87)は弥生後期から奈良・平安時代の包蔵地、城ノ内遺跡(88)は奈良・平安時代の包蔵地である。

第1表 遺跡地名表

No	遺跡名	所在地	種別	遺跡の概要		
		千葉県(印西市)		時代(時期)等	遺構・遺物等	立地・現状
1	新井堀Ⅱ遺跡(本書掲載)	草深字新井堀	包蔵地	奈良・平安		台地上・山林
2	松崎Ⅱ遺跡	松崎	包蔵地・集落	旧石器・縄文・古墳	旧石器遺物集中区、住居、土坑墓、野馬土手、縄文土器、土師器、石器、鉄滓	台地上・荒地
3	松崎Ⅲ遺跡	松崎字堀木戸	包蔵地	旧石器・縄文・中世	旧石器・縄文土器	台地上・荒地
4	松崎Ⅵ遺跡	草深字松崎前	包蔵地	旧石器・縄文(早)・平安	旧石器遺物集中区、住居、炉穴、縄文土器、土師器、須恵器	台地上・荒地
5	小台遺跡	松崎字小台	包蔵地	縄文(中・後)・古墳(後期)	縄文土器(加曾利・堀之内)・土師器	台地上・畑地
6	三郷台遺跡	松崎字三郷	包蔵地	縄文(中)・平安	縄文土器(加曾利)土師器	台地上・畑地
7	三郷遺跡	松崎字大久保	包蔵地	縄文(中)・古墳(後期)	土師器	台地上・畑地
8	前戸遺跡	松崎字前戸	包蔵地	縄文(中)・平安	縄文土器(加曾利)・土師器・須恵器	台地上・畑地
9	中郷遺跡	松崎字中郷	包蔵地	縄文(早・前・中)・古墳(後)～奈良		台地上・畑地
10	船尾遺跡(貝塚)	船尾字向久保	包蔵地	縄文・古墳後期	縄文土器(茅山)、土師器	台地上・荒地
11	坊山遺跡	船尾字坊山	包蔵地	縄文(早期)	縄文土器(茅山)・土師器	台地上・畑地
12	南ノ内遺跡(本書掲載)	荒野字南内	包蔵地		土師器	台地上・畑地
13	荒野遺跡	荒野字西ノ内	包蔵地	縄文(前期)	縄文土器	台地上・畑地
14	塚家古墳	竜腹寺字前原	古墳	古墳	方墳 一辺40m	台地上・山林
15	雨古瀬遺跡	角田字雨古瀬	包蔵地	旧石器・縄文(早・前期)	屋外炉址遺構、土坑、縄文土器(夏島・茅山・浮島・井草・田戸)、石器(ナイフ・スクレイパー・尖頭器)	台地上・ニュータウン敷地
16	角田台遺跡	角田字関所	包蔵地・集落	旧石器・縄文(早期・前期)	住居、炉穴、土坑、溝、縄文土器(条痕文・諸磯)、石器(石刃・槍先形石器・ナイフ・スクレイパー・磨製石斧)	台地上・原野・山林
17	式卜込遺跡	角田字式卜込	包蔵地・集落	旧石器・縄文(前・中期)、弥生・古墳～奈良・平安	炉穴、掘立柱建物跡、縄文土器(加曾利・前期)、弥生土器、土師器、須恵器、石刃	台地上・畑・山林・道路
18	荒古遺跡	角田字荒久	包蔵地	旧石器・縄文	旧石器時代遺物集中区、陥穴、縄文(早・前期)、石器(槍先形尖頭器・ナイフ・剥片)	台地上・畑・山林・道路
19	柳谷遺跡	萩原	包蔵地	縄文(中・後期)	縄文土器(加曾利・B・安行3)	台地上・宅地
20	出戸遺跡	萩原	包蔵地・塚	縄文(前・中・後期)・中近世	塚、縄文土器(加曾利・安行1・浮島)、陶器・磁器	台地上・宅地
21	和田谷第4遺跡(本書掲載)	萩原和田谷	包蔵地	縄文(早・前・中・後期)、弥生・古～奈良・平安	縄文土器(加曾利・茅山・浮島)、弥生土器、土師器	台地上・畑地
22	山中台遺跡	萩原山中台	包蔵地	縄文(早・中・後期)・古墳～平安	縄文土器(加曾利・安行1・夏島)、土師器	台地上・畑地
23	和田谷第3遺跡	萩原和田谷	包蔵地	縄文	縄文土器	台地上・畑地
24	和田谷第2遺跡	萩原和田谷	包蔵地	縄文(早・中)・弥生(後期)・古墳～平安	縄文土器(加曾利・茅山)、弥生土器、土師器	台地上・畑地
25	和田谷第1遺跡	萩原和田谷	包蔵地	縄文(早・前期)	縄文土器(茅山・関山)	台地上・山林
26	株木遺跡	萩原株木	包蔵地	縄文・弥生後期、奈良・平安	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器	台地上・畑地
27	萩原遺跡	萩原	包蔵地	縄文・弥生後期・古墳～奈良・平安	縄文土器、弥生土器、土師器	台地上・畑地
28	城内遺跡	萩原城内	包蔵地	縄文(後期)、弥生(後期)、古墳～奈良・平安	縄文土器(加曾利B)、弥生土器、土師器	台地上・畑地
29	辺田谷第3遺跡	萩原辺田谷	包蔵地	縄文(後期)、弥生(後期)、古墳～奈良・平安	弥生土器、土師器、須恵器	台地上・畑地
30	権現堂遺跡	萩原権現堂	包蔵地	縄文・弥生(後期)・古墳～奈良・平安	縄文土器・弥生土器・土師器	台地上・畑地
31	長原遺跡	萩原長原	包蔵地	縄文(前期)・古墳～奈良・平安	縄文土器、土師器、須恵器	台地上・山林
32	絡谷遺跡	萩原絡谷	包蔵地	古墳～奈良・平安	土師器	台地上・山林
33	丑むぐり遺跡	松虫丑むぐり・松虫	包蔵地・集落	旧石器・縄文(中・後期)	住居、縄文土器(加曾利・称名寺)、打製石斧、軽石、石鏃	台地上・宅地
34	松虫陣屋跡	松虫談義所・一作谷	陣屋跡	中世	郭、土塁、堀、溝	台地上・山林
35	木橋第1遺跡(本書掲載)	吉高木橋	包蔵地	弥生(後期)・古墳～奈良・平安	弥生土器、土師器	台地上・畑地
36	木橋第2遺跡	吉高木橋	包蔵地	縄文(後期)・弥生(後期)・古墳～奈良・平安	縄文土器(称名寺・堀之内)・弥生土器、土師器、土玉	台地上・畑地
37	堀尻第2遺跡	吉高堀尻	包蔵地	縄文(後期)、古墳～奈良・平安	縄文土器、土師器、埴輪	台地上・畑地
38	堀尻第1遺跡	吉高堀尻	包蔵地	古墳～奈良・平安	土師器、埴輪	台地上・畑地
39	大竹遺跡	吉高大竹	包蔵地	古墳～奈良・平安	土師器、須恵器、埴輪、土錘	台地上・畑地
40	吉高大谷遺跡	吉高大谷	集落	縄文(早期)、弥生(後期)、古墳～奈良・平安	住居、縄文土器(田戸下層)、土師器、須恵器	台地上・畑地
41	向田遺跡	吉高向田	包蔵地	縄文(後期)、弥生(後期)、古墳～奈良・平安	弥生土器、土師器	台地上・畑地
42	古木戸第2遺跡	吉高古木戸・向田	包蔵地	縄文(早・中・後期)・弥生(後期)	縄文土器(加曾利・茅山)、弥生土器、土師器	台地上・畑地
43	古木戸第1遺跡	吉高古木戸	包蔵地	縄文(後期)、古墳～奈良・平安	縄文土器、土師器	台地上・畑地

No	遺跡名	所在地		種別	遺跡の概要		
		千葉県 (印西市)			時代 (時期) 等	遺構・遺物等	立地・現状
44	手倉野馬堀 (本書掲載)	白幡字手倉	野馬堀			堀	台地斜面・山林
45	手倉砦跡	白幡字手倉山	城館跡	中近世		連郭、土塁	台地上・山林
46	手倉山野野馬堀	白幡字手倉	野馬堀			堀	台地上・山林
47	黒田遺跡	白幡字黒田	包蔵地	平安		土師器	台地上・畑地
48	原新田遺跡	高西新田字原新田	包蔵地	縄文 (早期)、古墳 (前期)、平安		縄文土器 (井草・稲荷台・花輪台)、土師器	台地上・畑地
49	寺山遺跡	高西新田字石尊	包蔵地	平安		土師器	台地上・畑地
50	正砂台遺跡	浦部字宮岡	包蔵地	縄文・弥生・平安		縄文土器、弥生土器、土師器	台地上
51	物見台遺跡	浦部字物見台	包蔵地	古墳 (後期)、奈良・平安		土師器	台地上・畑地
52	南山遺跡	浦部字南山	集落	弥生 (後期)、古墳 (前期)、奈良・平安		住居、弥生土器、土師器、羽口、スラッグ	台地上・畑地
53	竜崖城跡	浦部字神台	城館跡	中世		多郭雑形、土塁、空濠	台地上・山林・畑地
54	竜崖遺跡	浦部字神台	包蔵地	平安・近世		土師器	台地上・畑地
55	宮作遺跡	浦部字大宮	包蔵地	平安		土師器	台地上・畑地
56	天神古墳	平賀天神	古墳	古墳		円墳 5m×0.5m	台地上・山林
57	天神遺跡	平賀天神・細野	包蔵地	縄文 (早期)、弥生 (後期)、古墳～奈良・平安		縄文土器 (茅山・三戸)、弥生土器、土師器、須恵器	台地上・山林
58	井ノ崎台遺跡 (第3地点) (本書掲載)	平賀井ノ崎台	集落	縄文 (早期)、古墳～奈良・平安、中近世		住居、陥穴、炉穴、弥生土器、土師器	台地上・山林
59	勸堂遺跡+勸堂古墳	平賀勸堂	包蔵地	古墳～奈良・平安		土師器	台地上・畑地
60	惣行遺跡	平賀惣行・山ノ下・台	包蔵地・集落	旧石器・縄文 (早期)・古墳～奈良・平安・中世		住居、陥穴、土坑、縄文土器 (茅山)、土師器、須恵器、陶器、銭貨、数珠、人骨	台地上・畑地
61	古井戸後遺跡 (第2地点) (本書掲載)	平賀古井戸後・杉ノ木	包蔵地	古墳～奈良・平安		土師器・須恵器	台地上・畑地
62	古井戸原第1遺跡+山ノ下古墳	平賀古井戸原・油作	包蔵地	弥生 (後期)・古墳～奈良・平安		弥生土器、土師器、須恵器、土錘	台地上・畑地
63	油作第1遺跡	平賀油作・古井戸前	包蔵地・集落	旧石器・古墳 (後期)、奈良・平安、中近世		住居、掘立柱建物跡、土師器、石製品 (管玉)、銭貨	台地上・畑地
64	油作第2遺跡	平賀油作・榎台	包蔵地・集落	旧石器・縄文 (早・前期)・古墳 (前期)～奈良・平安		住居、掘立柱建物跡、土坑、縄文土器 (諸磯)、土師器、須恵器、石器 (ポイント・フレイク・有舌尖頭器)、金属製品	台地上・畑地
65	駒込遺跡	平賀駒込	包蔵地・集落	旧石器・縄文 (早・晩期)、弥生 (後期)、古墳 (後期)		住居、炉穴、土坑、土師器、石器	台地上・宅地
66	仲ノ台遺跡	平賀仲ノ台	包蔵地・集落	旧石器・弥生 (後期)・縄文 (中期)		住居、土師器	台地上・畑地
67	一ノ台遺跡	平賀一ノ台・勝負	包蔵地・集落	旧石器・縄文 (早・中期)・弥生 (後期)、古墳 (前・中期)		住居、土坑、堀、溝、炉穴、縄文土器 (加曾利・茅山・田戸)、土師器	台地上・畑地
68	大畑遺跡 (第4地点) (本書掲載)	大森字大畑	包蔵地	縄文 (中・後期)・古墳 (後期)～奈良・平安		住居、縄文土器 (加曾利・堀之内)・土師器	台地上・畑地
69	森内古墳	大森字森内	古墳	古墳		円墳15m、横穴式石室	台地上・畑地
70	大森古墳	大森字前畑	古墳	古墳		前方後円墳35m 横穴式石室	台地上・宅地
71	後庵山古墳群	大森字後庵	古墳	古墳		円墳2基	台地上・宅地
72	上宿古墳 (市指定史跡)	大森字上宿	古墳	古墳		方墳 横穴式石室 須恵器、鉄器、人骨	台地上・宅地
73	大森陣屋跡	大森字下宿	城館跡	近世		土塁	台地上・畑地・山林
74	曾谷窪遺跡	大森字曾谷窪	包蔵地	奈良・平安			台地上
75	天神台遺跡	大森字呑内	貝塚・集落	縄文・弥生・古墳・奈良・平安		地点貝塚、住居、縄文土器 (加曾利・安行・堀之内・田戸)、弥生、土師器、須恵器、鉄器、銅製品、土錘	台地上・畑地・山林・荒地
76	木下別所廃寺跡	別所字石神台	寺院跡	飛鳥・奈良・平安		古瓦 基壇	台地上・畑地
77	八夜台遺跡	大森字八夜台	包蔵地			土師器	台地上・畑地
78	三高台遺跡	大森字三高台	包蔵地	縄文 (中期)・弥生 (後期)・古墳 (後期)		弥生土器、土師器	台地上・畑地
79	割野古墳	大森字割野	古墳	古墳		円墳	台地上・宅地
80	迎山遺跡	大森字迎山	包蔵地	古墳 (後期)		土師器	台地上・畑地
81	鹿黒堀込遺跡	鹿黒字堀込	包蔵地	縄文		縄文土器、土師器	台地上・畑地
82	アラク山遺跡	鹿黒字アラク山	包蔵地			土師器	台地上・畑地
83	入谷津遺跡	鹿黒字入谷津	包蔵地			土師器	台地先端・畑地
84	新山北遺跡	鹿黒字新山	集落	旧石器・縄文・古墳 (前期)		細石器、縄文土器、土師器	台地上・畑地
85	和泉砦跡	和泉字東畑	城館跡	縄文 (早期)・中世		土塁 縄文土器 (茅山)	台地上・畑地
86	和泉古墳	和泉字東畑	古墳	古墳		円墳24m	台地上・畑地
87	沖ノ台遺跡	和泉字沖之台	包蔵地	弥生 (後期)・奈良・平安		弥生土器、土師器	台地上・畑地
88	城之内遺跡	和泉字宮原	包蔵地	奈良・平安		土師器、須恵器	台地上・畑地



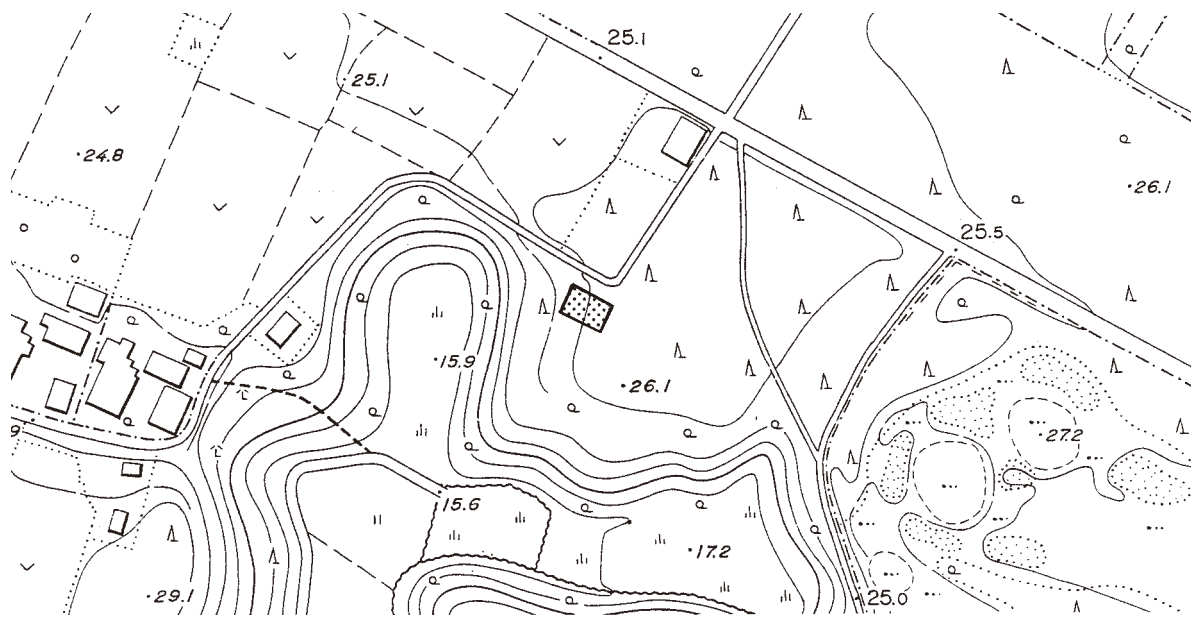
第5図 周辺の遺跡 (5)

第2章 新井堀Ⅱ遺跡 (第6・7図、図版1・12)

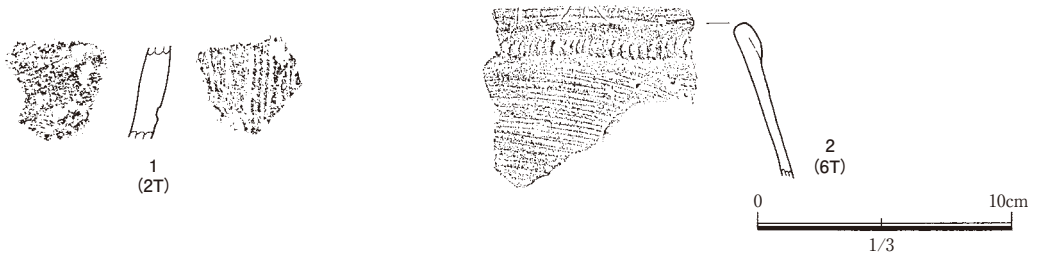
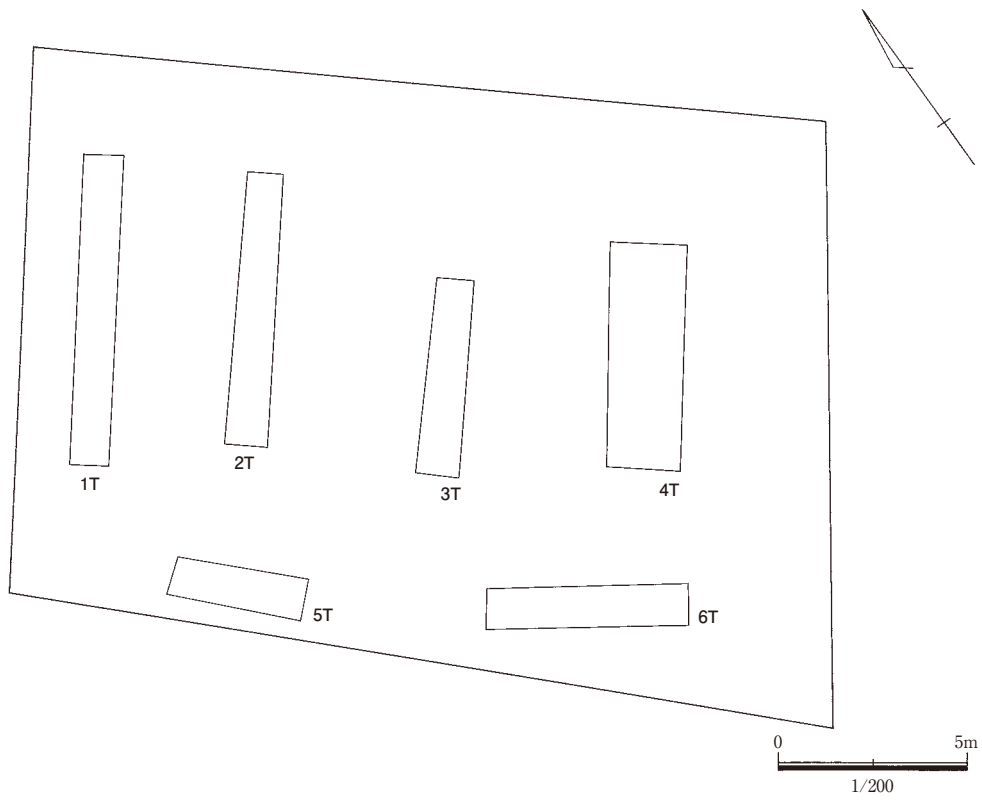
1. 遺跡の位置 (第6図) 西印旛沼の北岸2.5km、標高25mの台地上。
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物 (第7図) 遺構は検出されなかった。主な出土遺物は縄文土器である。1は早期条痕文系土器の胴部下半片である。表裏ともに貝殻条痕文が施されている。2は安行1式の粗製土器の口縁部片である。口唇部に紐線文を有し、以下は条線が施される。他にも早期条痕文系の土器片が出土しているが、小片のため図示しえない。

第3章 和田谷第4遺跡 (第8・9図、図版1・2・12)

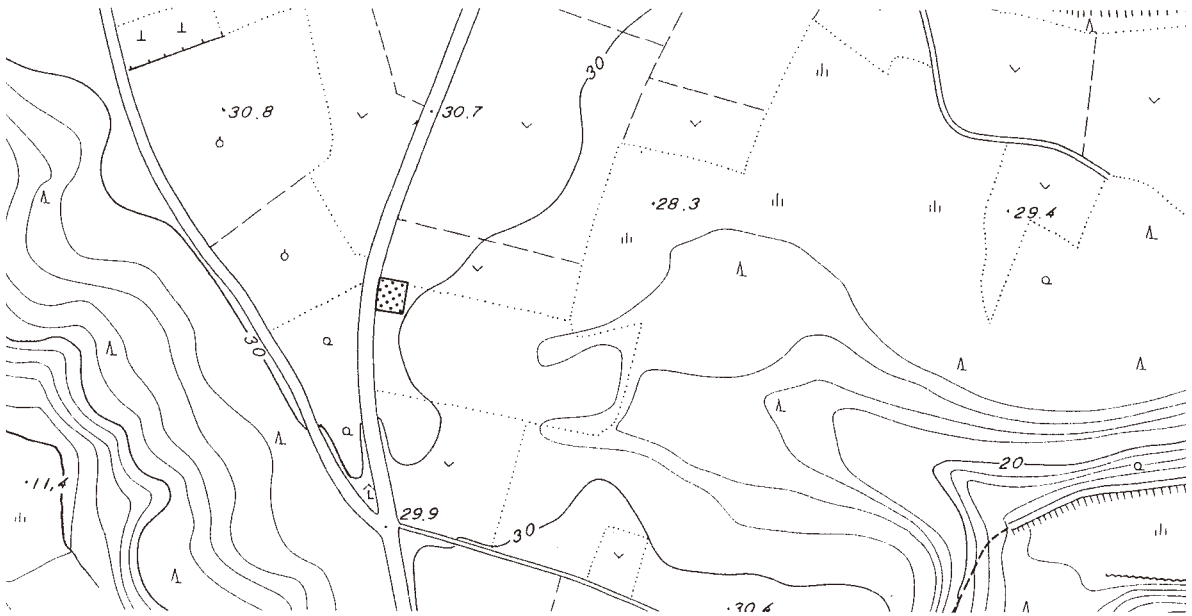
1. 遺跡の位置 (第8図) 北印旛沼の西岸1.4km、標高28mの台地上。
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物 (第9図) 遺構は検出されなかった。主な出土遺物は縄文土器である。1、2ともに早期条痕文系土器の胴部片である。表裏ともに貝殻条痕文が施されている。1は下半部となり、2は上半部で隆線の横位貼付が認められる。裏面の剥落が著しい。他にも当該期の土器片が出土しているが、小片のため図示しえない。



第6図 新井堀Ⅱ遺跡位置図



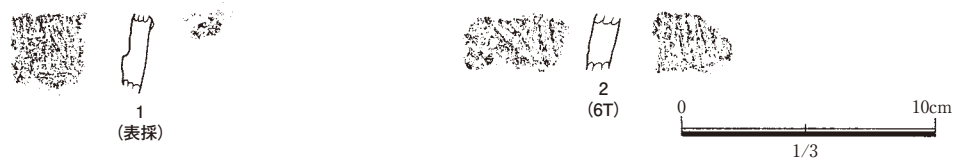
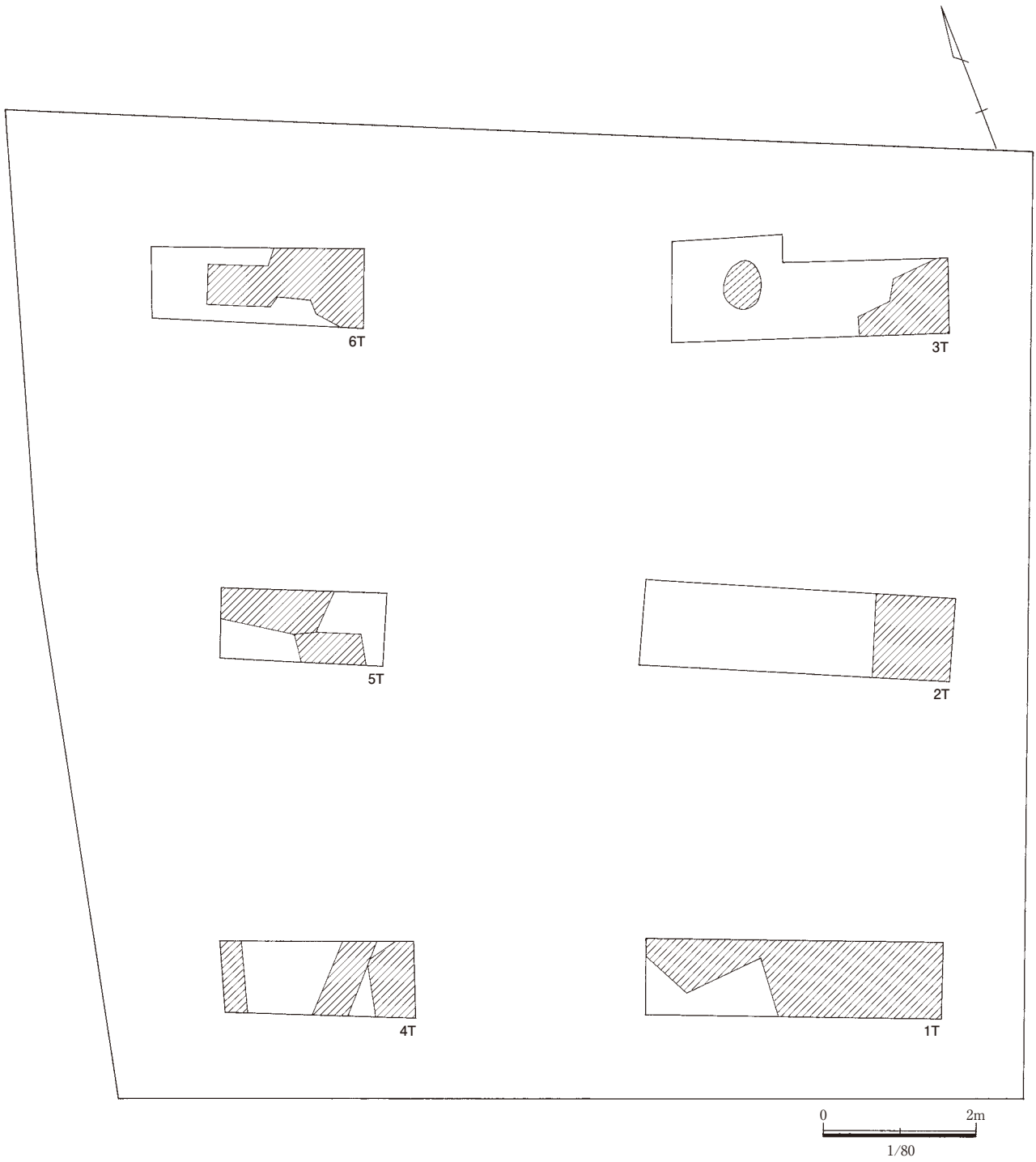
第7図 新井堀Ⅱ遺跡全体図及び出土遺物



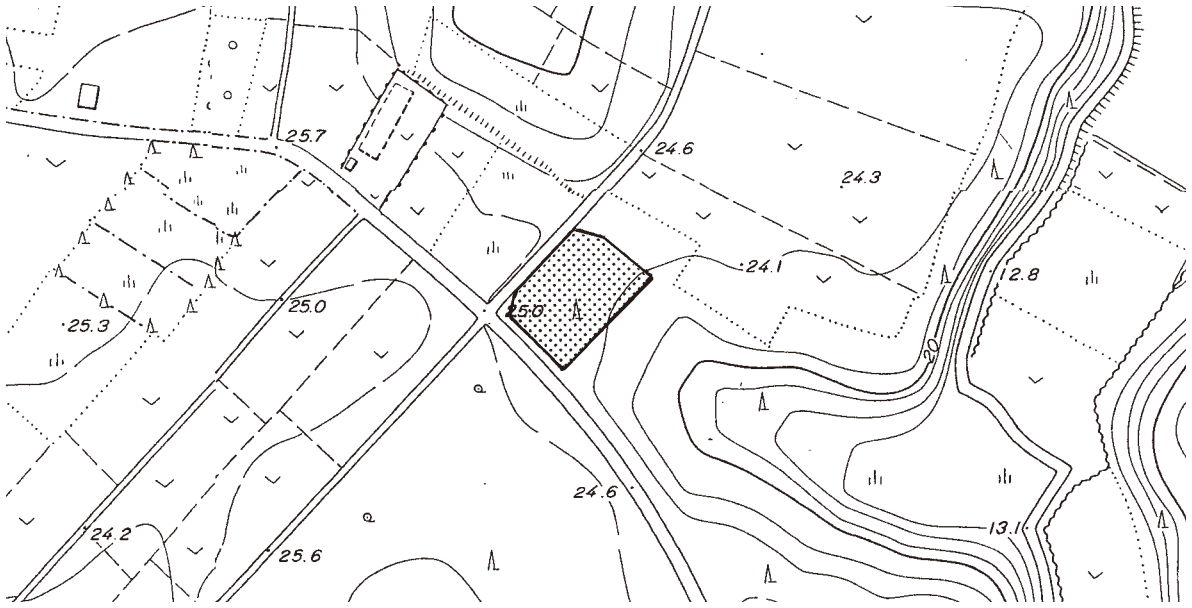
第8図 和田谷第4遺跡位置図

第4章 手倉野馬堀 (第10・11・12図、図版3・4・12・13)

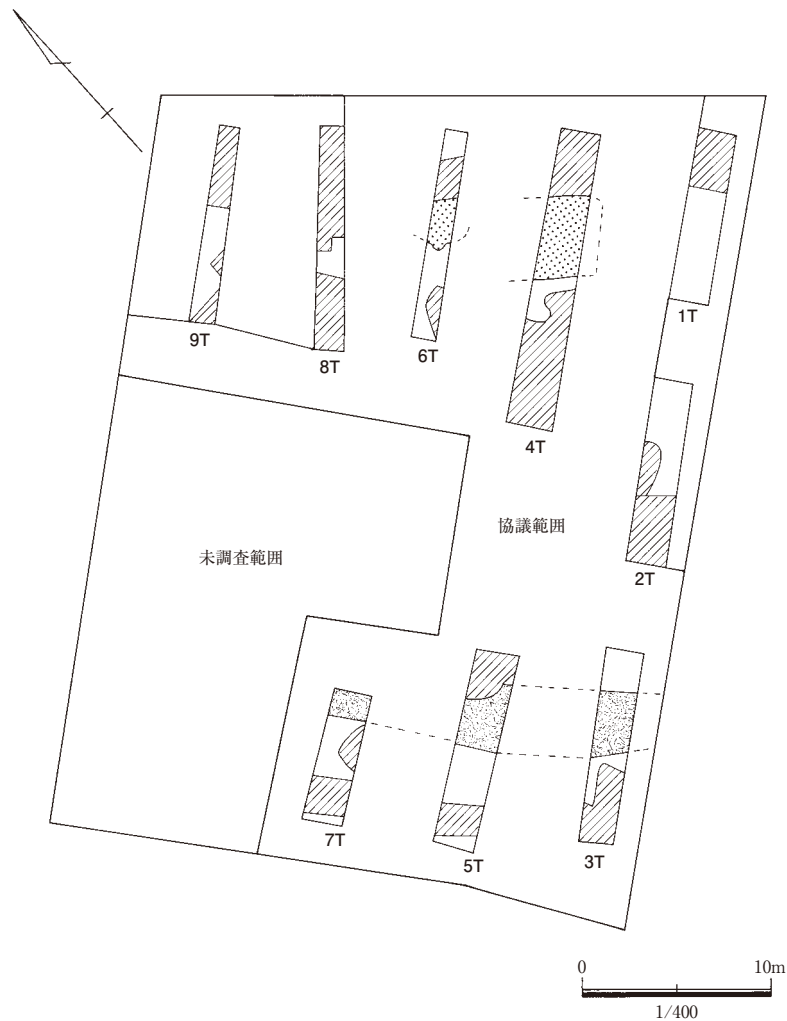
1. 遺跡の位置 (第10図) 手賀沼の南東岸1.5km、標高25mの台地上。
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物(第11・12図) 奈良・平安時代竪穴住居跡2軒、近世野馬堀1条が検出された。主な遺物は奈良・平安時代の土師器、須恵器であり4トレンチと7トレンチから出土している。1は土師器坏で、遺存率は口縁から底部で1/4である。法量は推定口径12.4cm、器高3.8cm、推定底径7.4cmを測る。ロクロ成形。内外面ともにロクロナデ。底部外面は回転糸切り後、周縁部は回転ヘラケズリ。体部下端は手持ちヘラケズリである。色調は黒暗褐色を呈する。胎土には雲母末を多量、赤色粒子、石英、長石を少量、白色針状物を微量に含む。焼成は良好で、内面に煤が付着する。2は土師器坏で、遺存率は口縁から底部で1/3である。法量は推定口径12.6cm、器高4.5cm、推定底径8.2cmを測る。ロクロ成形。内外面ともにロクロナデ。底部外面は回転糸切り後、周縁部は回転ヘラケズリ。体部下端は手持ちヘラケズリである。色調は明褐色を呈する。胎土には赤色粒子、雲母末を多量、白色針状物を微量に含む。焼成は良好である。3は土師器坏で、遺存率は体部から底部で1/4である。法量は遺存器高2.6cm、推定底径6.0cmを測る。ロクロ成形。内外面ともにロクロナデ。底部外面は回転糸切り後、周縁部は回転ヘラケズリ。体部下端は手持ちヘラケズリである。色調は明褐色を呈する。胎土には赤色粒子、雲母末を多量に含む。焼成は良好である。4は土師器甕で、遺存率は胴部から底部である。法量は遺存器高7.21cm、底径8.0cmを測る。色調は赤褐色を呈する。胴部上半は斜位ヘラケズリ、底部付近は横位ヘラケズリ。内面はヘラケズリ後、ヘラナデ。やや剥離があり、煤が付着している。底部外面はヘラケズリである。胎土に赤色粒子、石英、長石を多量に含む。焼成は良好である。5は須恵器の甕で、口縁直下の胴部片である。色調は灰褐色を呈する。外面は縦位平行タタキ、内面に当具痕を有する。胎土に黒色粒子、雲母末を多量に含む。焼成は良好である。他に当該期の土師器坏、甕、須恵器坏、甕や縄文土器が出土しているが、小片のため図示しえない。



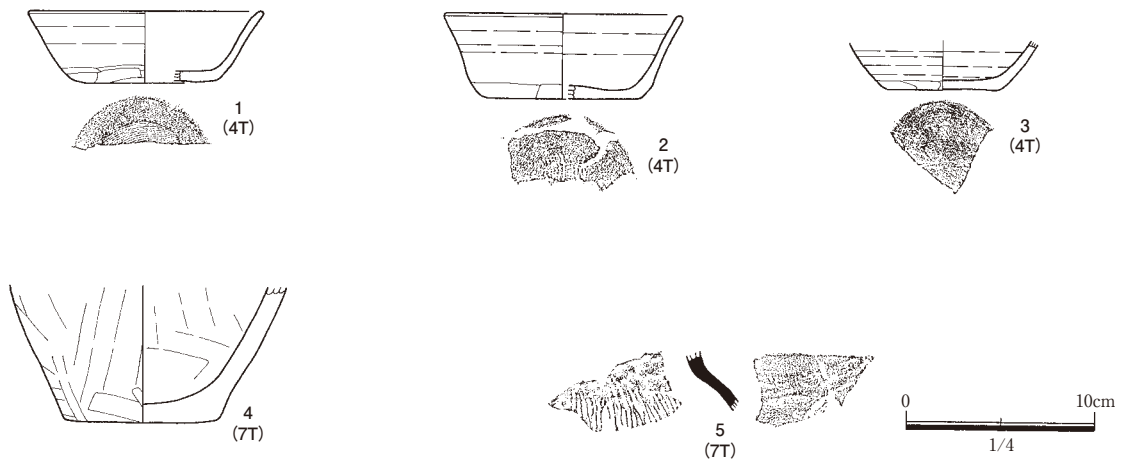
第9図 和田谷第4遺跡全体図及び出土遺物



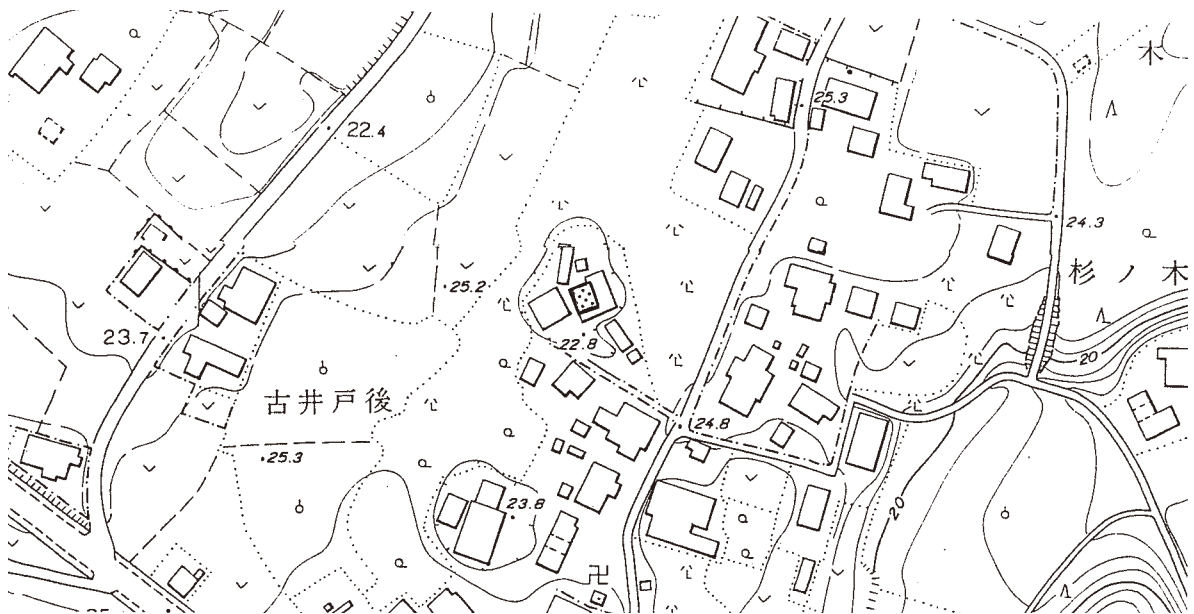
第10図 手倉野馬堀位置図



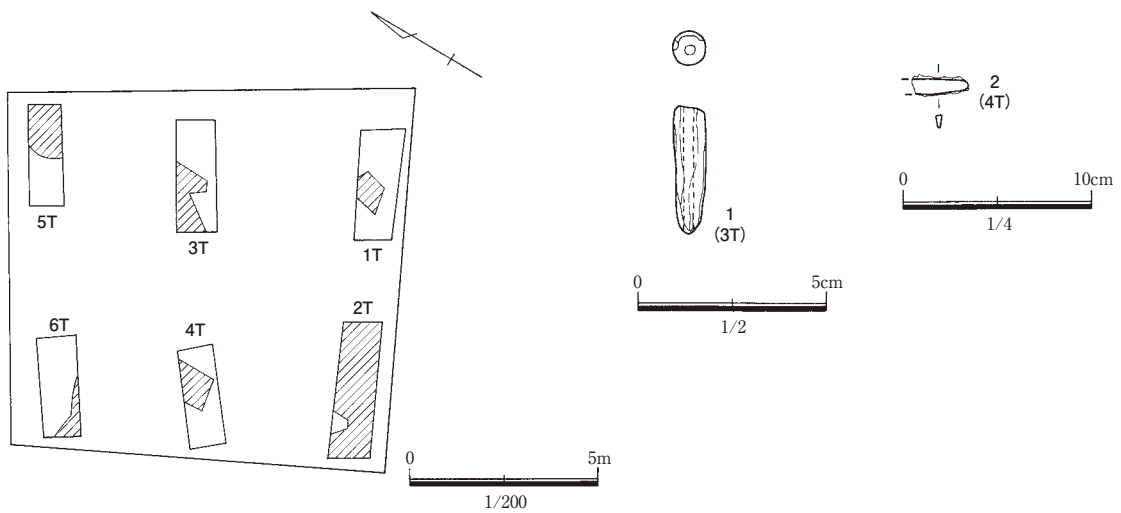
第11図 手倉野馬堀全体図



第12図 手倉野馬堀出土遺物



第13図 古井戸後遺跡（第2地点）位置図



第14図 古井戸後遺跡（第2地点）全体図及び出土遺物

第5章 古井戸後遺跡（第2地点）（第13・14図、図版4・5・12）

1. 遺跡の位置（第13図） 印旛沼の北岸1.1km、標高25mの台地上。
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物（第14図） 遺構は検出されなかった。主な遺物は土製品と鉄製品である。1は土錘で、完形品である。長さ3.4cm、径は0.95cm×0.9cm、中心部の貫通孔の径は0.25cm×0.25cmを測る。重量は2.4gである。外面はヘラ状工具による面取りを行っている。胎土に赤色粒子を少量含む。焼成は良好である。2は刀子の柄部である。遺存長3.0cm、幅0.7cm、厚さ0.3cm、重量は2.3gを測る。他に土師器と須恵器の坏、甕が出土しているが、小片のため図示しえない。

第6章 木橋第1遺跡（第15・16図、図版5・6・12）

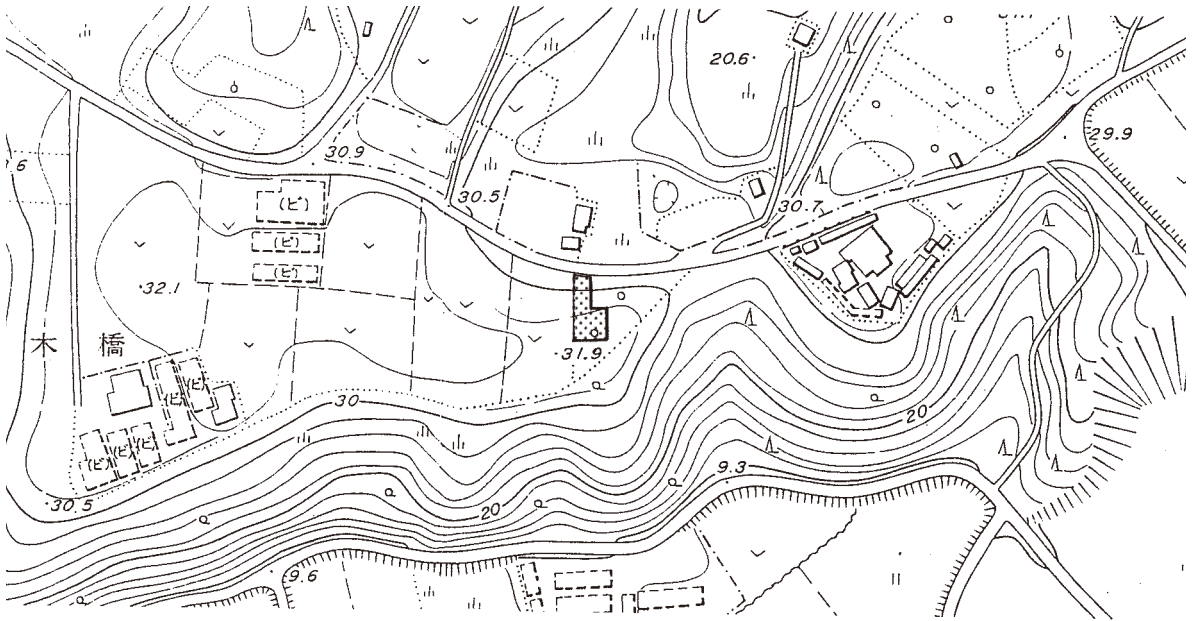
1. 遺跡の位置（第15図） 北印旛沼の南西岸2km、標高30mの台地上。
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物（第16図） 遺構は検出されなかった。図示できる遺物は縄文土器である。1は緩やかに外反する深鉢形土器の頸部片である。半截竹管による斜位沈線区画内に単節LR縄文を充填する。施文間は丁寧なミガキを施す。加曾利B式に比定される。内面もミガキ。他には土師器の坏、甕、近世陶器が出土しているが、小片のため図示しえない。

第7章 井ノ崎台遺跡（第3地点）（第17・18図、図版6・7）

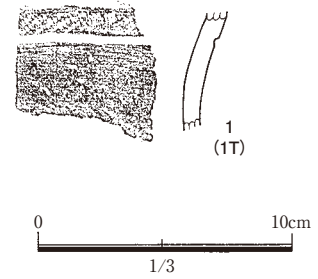
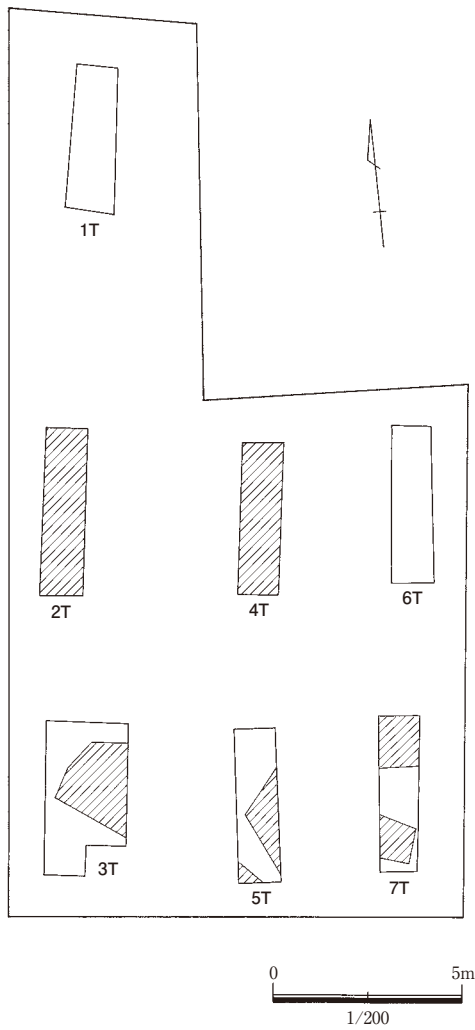
1. 遺跡の位置（第17図） 北印旛沼の南西1.5km、西印旛沼の北東2kmに位置する標高21mの台地上。
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物（第18図） 遺構は検出されなかった。遺物は土師器坏、甕、近世陶磁器、近代瓦が出土しているが、小片のため図示しえない。

第8章 大畑遺跡（第4地点）（第19・20図、図版7・8・12）

1. 遺跡の位置（第19図） 亀成川の北岸0.5km、標高23mの台地上。
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物（第20図） 遺構は検出されなかった。図示できる遺物は石製品1点のみである。1は砥石である。片面は剥落しており、全体も折損している。遺存長は7.1cm、幅2.9cm、遺存幅2.1cm、重量は32.1gを量る。石材は砂岩。全体が被熱を受けている。他には土師器坏、甕、近世陶磁器が出土しているが、小片のため図示しえない。



第15図 木橋第1遺跡位置図



第9章 南ノ内遺跡

(第21・22図、図版8・9・10)

1. 遺跡の位置 (第21図) 北印旛沼の西岸3km、標高28mの台地上。
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物(第22図) 遺構は検出されなかった。遺物は土師器坏、甕、近世陶磁器が出土しているが、小片のため図示しえない。

第16図 木橋第1遺跡全体図及び出土遺物



第17図 井ノ崎台遺跡（第3地点）位置図

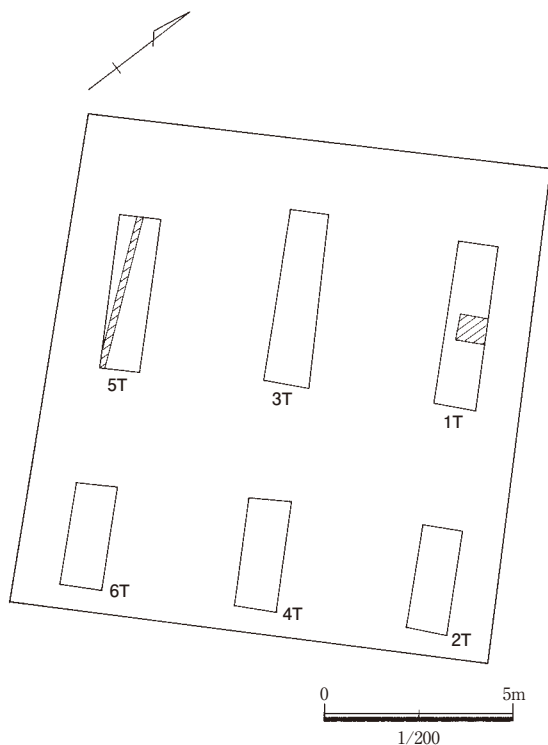
第10章 古井戸後遺跡（第3地点）

（第23・24図、図版10・11・12）

1. 遺跡の位置（第23図） 印旛沼の北岸1.1km、標高25mの台地上。

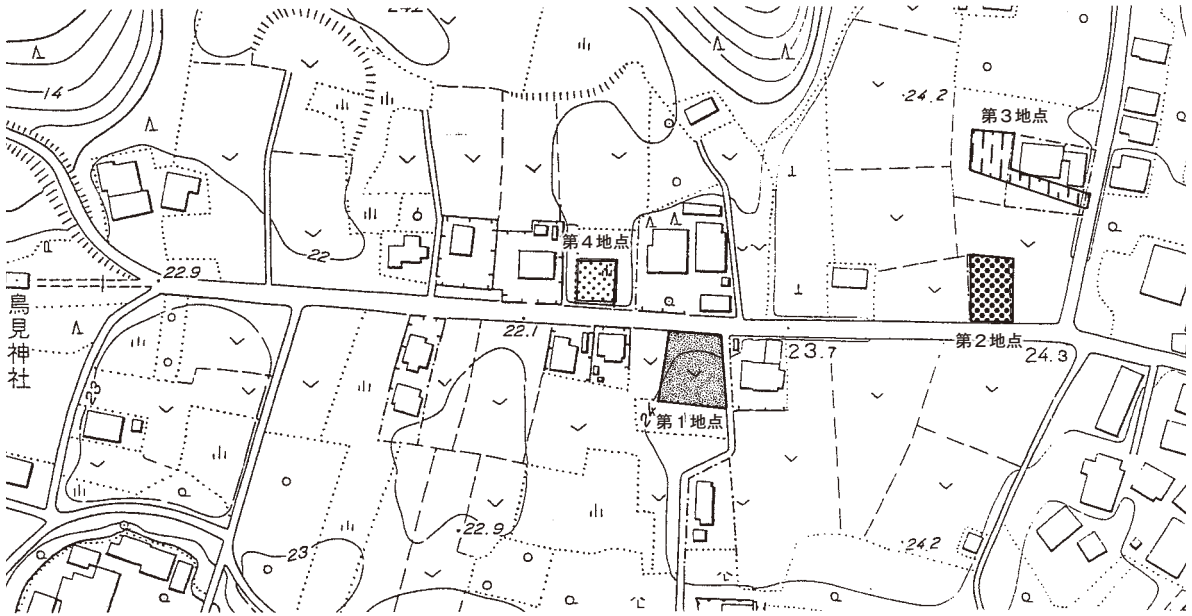
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを設定し、表土除去後遺構確認を実施した。

3. 遺構と遺物（第24図） 奈良・平安時代の竪穴住居跡1軒が検出された。主な遺物は奈良・平安時代の土師器である。1は土師器甕で、口縁部片である。法量は推定口径19.8cm、遺存高5.0cmを測る。外面はナデ、内面はヘラによるヨコナデである。色調は外面が橙褐色、内面は暗褐色を呈する。胎土には石英、長石、雲母末を多量、赤色粒子を少量含む。焼成は良好である。2、3は墨書を有する土師器坏片である。2は口縁部片、3は体部片である。ともに部分的であるため、墨書の詳細は不明である。2は内外面ともにロクロナデ。色調はにぶい橙褐色を呈する。胎土は赤色粒子を

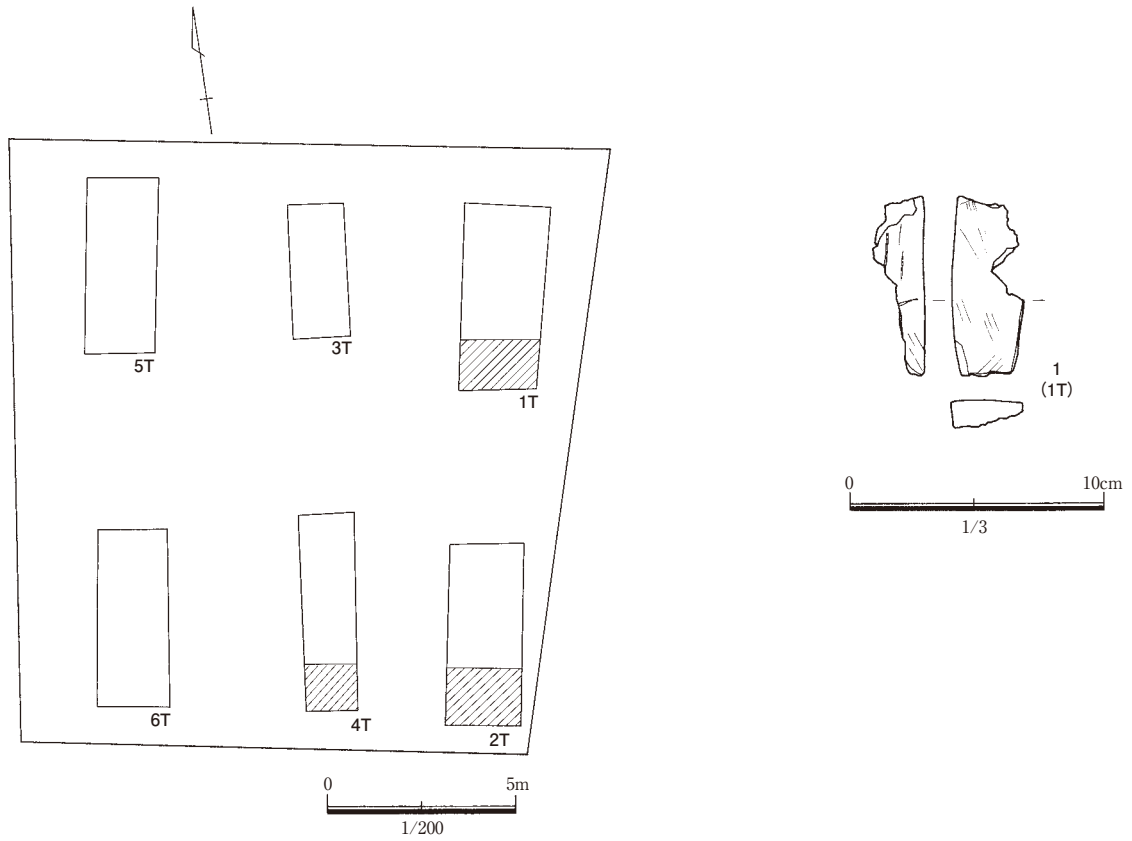


第18図 井ノ崎台遺跡（第3地点）全体図

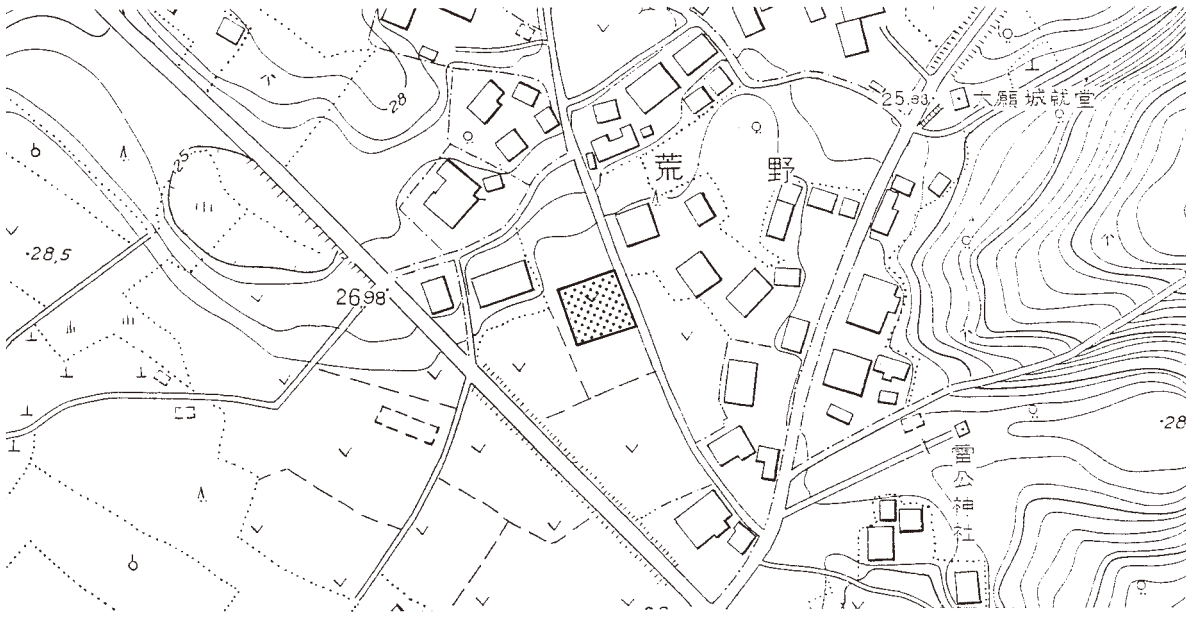
多量に、石英、長石を少量含む。焼成は良好である。3は内外面ともにロクロナデ。色調はにぶい橙褐色を呈する。胎土は赤色粒子、石英、長石、雲母末を少量含む。焼成は良好である。他にホウロクを含む近世陶器、茶碗等が出土しているが、小片のため図示しえない。



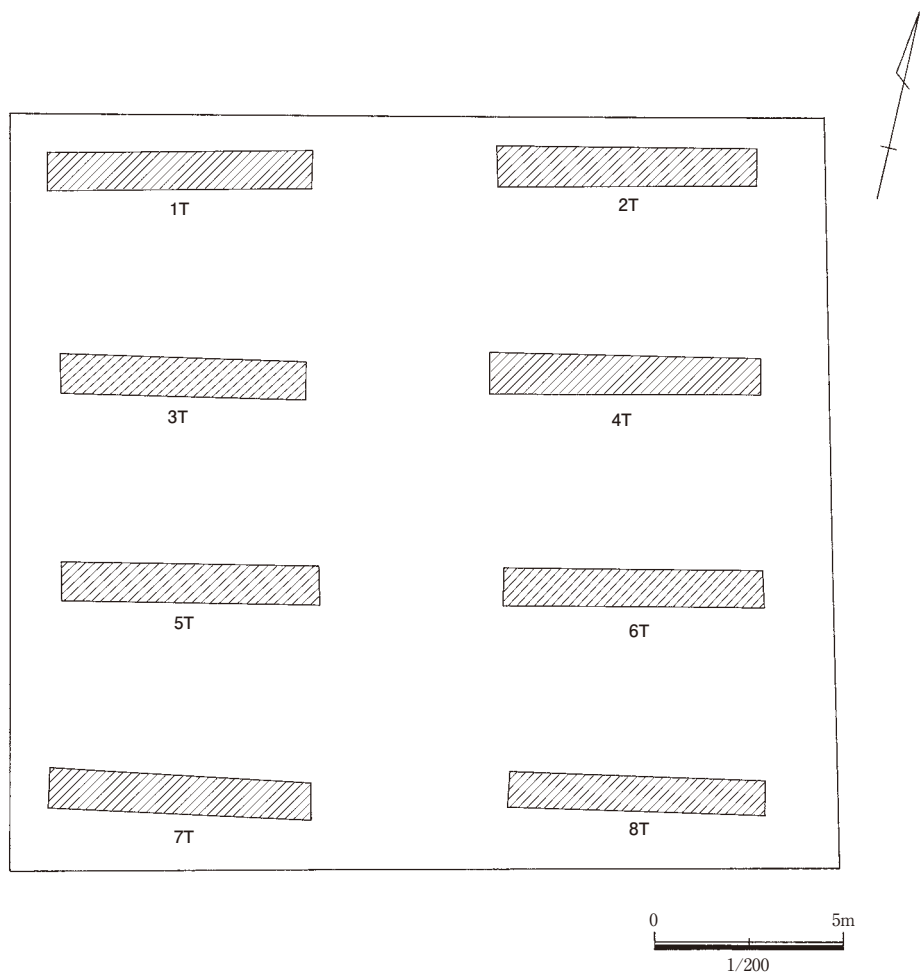
第19図 大畑遺跡（第4地点）位置図



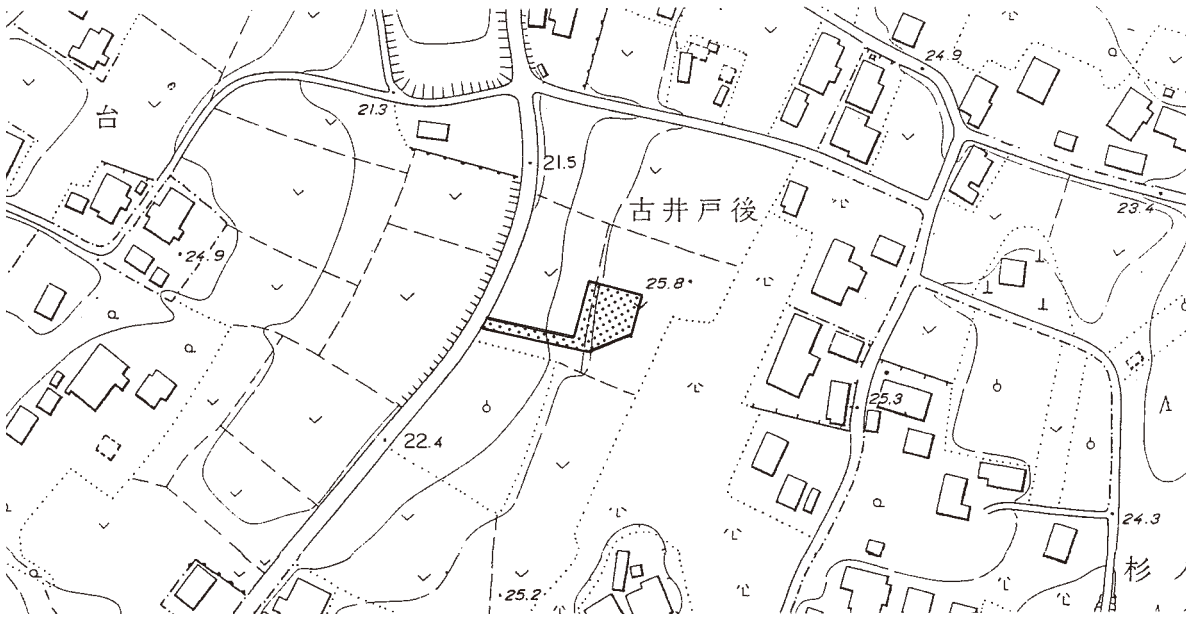
第20図 大畑遺跡（第4地点）全体図及び出土遺物



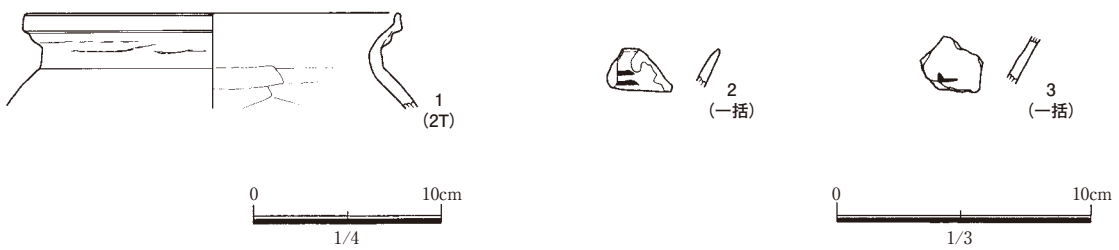
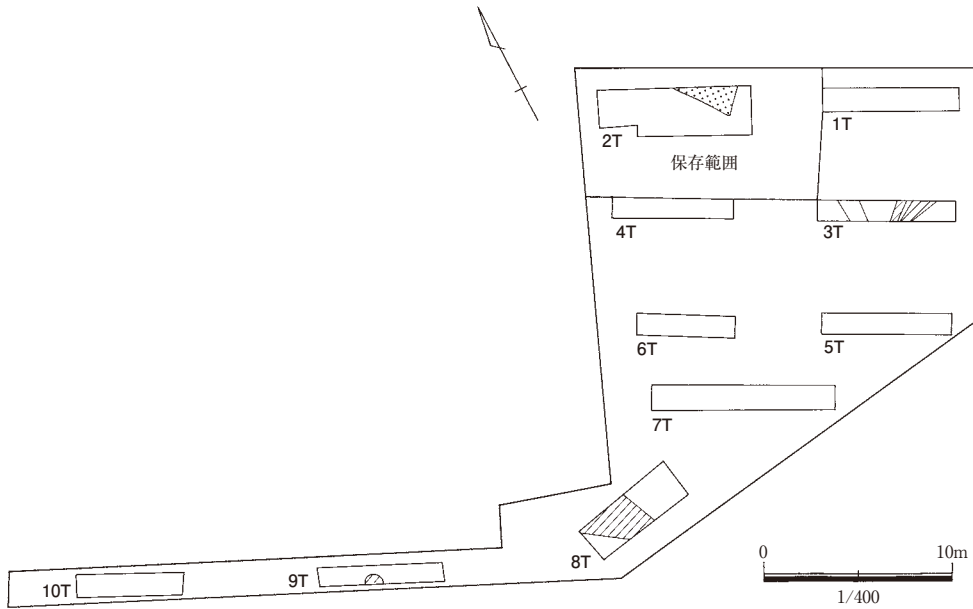
第21図 南ノ内遺跡位置図



第22図 南ノ内遺跡全体図



第23図 古井戸後遺跡（第3地点）位置図



第24図 古井戸後遺跡（第3地点）全体図及び出土遺物

第11章 まとめ

新井堀Ⅱ遺跡

今回の調査では遺構は検出せず、縄文時代の早期条痕文土器と後期の安行式の粗製土器の僅かな出土に留まった。周辺では、印旛郡市文化財センターと千葉県文化財センターの調査事例があり、両調査ともに早期から前期のまとまった包含層が検出している。今回の調査でも同時期の遺物の出土はみられるものの、中心域からは若干外れていると考えられる。

和田谷第4遺跡

過年度に調査事例はない。今回の調査では攪乱により遺構の検出はなかった。トレンチ内と表採から縄文時代早期の条痕文系土器が僅かに出土したのみであった。遺跡の総体としての性格は今後の調査事例の増加に委ねるしかないが、分布地図に搭載されているとおり縄文時代早期の土器が発見された点は成果であった。立地的には樹枝状台地の中央部付近に位置しているため、該期の濃密な分布は期待できないかもしれない。

手倉野馬堀

過年度に調査事例はない。『大日本地名辞典』によると「印西野、草深野の西にて一名テクラ原、江戸幕府の時、下総十一牧の一なりければ、印西牧と称せられる。」との記載があり、この付近は江戸時代前期の慶長年間（1596年～1615年）に設けられた「印西牧」の地に相当する。しかし幕府は寛文（1661年～1672年）、延宝期（1673年～1681年）に積極的に新田開発を推進し、印西牧の新田開発もこの頃に始まったと考えられている。このため当初の印西牧の範囲は縮小され、草深新田より西側のエリアのみとなる。本遺跡は明治2年（1869）年、印西牧開墾のための調査の際、村で作製した彩色絵図（印西市教育委員会保管）によると「高西新田野馬不入場」にあたる。施設としては野馬が立ち入らない場所で、村が年貢を負担する草地である。位置的にみてもこの野馬不入場の境の野馬土手となろう。新田開発を免れ、縮小された中での検出は貴重である。また、周辺には手倉山野馬堀や連郭構造の土塁を有する手倉砦などが所在する。双方とも牧関連施設であることは明白であろう。さらに本遺跡では時代をのぼって奈良・平安時代の住居跡2軒も確認された。土師器坏・甕、須恵器甕が出土している。時期は8世紀後半の所産と考えられる。周辺に該期のまとまった集落が存在している可能性が高い。

古井戸後遺跡（第2地点）

古井戸後遺跡（第3地点）

直近の調査では、平成27年度に印西市による調査が行われている。奈良・平安時代の住居5軒が検出され、7世紀末から8世紀初頭の集落の存在が確認された。今回の調査で、第2地点は攪乱のため遺構は検出していない。第3地点では奈良・平安時代の住居跡が1軒検出し、保存対象域となった。また、第2地点では土器関係で明示できるものはなかったが、第3地点では8世紀後半に比定される土師器甕の口縁部片や墨書された坏が出土している。両遺跡の周辺では平賀遺跡群に代表される古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての集落や古墳群が濃密に展開し、本遺跡もその地域の一角である。第2地点で提示した土錘は印旛郡市文化財センターで調査を行った平賀惣行遺跡の中の遺構外出土遺物の中に同様の資料があり、同遺跡は8～9世紀の集落とされている。第3地点の出土遺物と併せて、同時期の住居が近隣に展開している可能性は高い。

木橋第1遺跡

過年度に調査事例はない。攪乱のため遺構は検出しなかった。唯一影響を受けていないトレンチから縄文時代後期の土器片が出土している。周辺の調査事例は少なく吉高大谷遺跡のみであるが、一応、分布地図に搭載されている内容に合致する結果は得られた。今後の調査成果に期待したい。

井ノ崎台遺跡（第3地点）

調査事例としては、印旛郡市文化財センターにより、印旛村道山田平賀線建設に先立って、平成元年度に調査を実施、平成6年度にはその近隣の土砂採取に伴って確認と本調査を実施している。遺跡の内容としては、元年度の調査で縄文時代の陥穴2基と炉穴17基、弥生時代の住居跡4軒、古墳時代前期の住居跡1軒のほか、中近世の溝状遺構が3条検出している。特に縄文時代早期については条痕文期を主体とする良好な包含層を含んでいる。平成6年度の調査では、縄文時代の土坑1基、弥生時代の住居跡5軒、中世以降は焼土址10基、土坑2基、溝状遺構1条が検出している。今回の調査では、攪乱は少なかったものの遺構は確認されなかった。遺物も奈良・平安時代の土師器が少量出土したのみで良好な状態は呈していない。位置的には平賀地区に接しているが、遺跡の北東側限界点の可能性はある。

大畑遺跡（第4地点）

平成15年度（第1地点）が初調査となり、それ以前の調査事例はない。これまで印西市が調査を実施してきた。平成17年度に第2地点、直近では平成26年度（第3地点）の調査事例がある。平成28年度の調査では対象地に僅かな攪乱を受けていたが、主たる遺構は検出しなかった。ここで過年度の調査成果をまとめてみる。平成15年度は第1地点の確認調査を行い、住居跡3軒と掘立柱建物跡（一部検出のため柱穴2基）を確認している。このうち1軒の住居と掘立柱列の本調査を実施し、住居跡は出土遺物により弥生時代後期から古墳時代前期の帰属年代が与えられている。平成16年度は該当地北側で、平成15年度に確認されていた残り2軒の住居跡を対象に本調査を実施している。調査の結果、1軒は縄文時代中期（加曾利E式期）のものと判明し、もう1軒は9世紀前半の帰属である。また、新たに掘立柱建物跡の柱穴2基が検出された。遺物は、土師器坏、甕、「王」と墨書した高台付坏、須恵器甕のほか、縄文時代中期加曾利E式、弥生時代後期の土器片が出土している。第2地点は平成17年度に調査を行い、9世紀前葉の住居跡2軒と土坑2基が検出した。出土遺物は該期の墨痕のある土師器坏、高台付坏、高坏、土玉のほか、鉄製紡錘車の良好な資料と鉄滓が出土している。また僅かではあるが、縄文時代後期と思われる土器片や古墳時代前期の高坏（器台か）が出土した。平成26年度の第3地点は土坑5基が検出した。うち1基は土坑としては大きく、落ち込み状を呈しているため、周辺の台地整形の一部である可能性を指摘している。1号土坑としているその落ち込みからは、須恵器の坏、甕、土玉など出土している。今回の第4地点が空隙な状態を示している点は気になるが、いずれにしてもこれまで調査された地点は、西側に向かって半島状に突き出した台地の中央部に位置しており、この一帯が縄文時代中期から9世紀前半までの濃密な集落である可能性は極めて高い。

南ノ内遺跡

過年度に調査事例はない。また、調査対象地も全面に攪乱の影響を受けており、出土遺物もなかった。本遺跡は分布地図上では古墳時代と奈良・平安時代の包蔵地とされているが、該期の遺跡は周辺でも少なく、希薄な状態を示している。今後の調査例増加に期待するほかない。

参考文献一覧

- 『千葉県印旛郡印西市後庵山古墳発掘調査報告』 1975 後庵山古墳発掘調査団
- 『曾谷ノ窪瓦窯跡発掘調査概報』 1980年 千葉県教育委員会 曾谷ノ窪瓦窯跡調査会
- 『印旛手賀』 1985年 早稲田大学出版部
- 『平賀』 1985年 平賀遺跡群発掘調査会
- 『千葉県埋蔵文化財分布地図－東葛飾・印旛地区－(1)』 1997年 千葉県教育委員会
- 『印西市内遺跡発掘調査報告書－天神台遺跡(第8地点)－』 2001年 印西市教育委員会
- 『印西市内遺跡発掘調査報告書－天神台遺跡第9地点－』 2002年 印西市教育委員会
- 『天神台遺跡(第11地点)発掘調査報告書』 2003年 印西市教育委員会
- 『印西市内遺跡発掘調査報告書－平成15年度－』 2004年 印西市教育委員会
- 『印西市内遺跡発掘調査報告書－平成16年度－』 2005年 印西市教育委員会
- 『印西市内遺跡調査報告書 上宿古墳』 2008年 印西市教育委員会
- 『印西市内遺跡発掘調査報告書－平成17年度～平成24年度－』 2014年 印西市教育委員会
- 『印西市内遺跡発掘調査報告書－平成25年度－』 2015年 印西市教育委員会
- 『印西市内遺跡発掘調査報告書－平成26年度－』 2016年 印西市教育委員会
- 『印西市内遺跡発掘調査報告書－平成27年度－』 2017年 印西市教育委員会
- 『油作第1遺跡発掘調査報告書』 1991年 財団法人印旛郡市文化財センター
- 『天神台・ヤジタ遺跡発掘調査報告書』 1991年 財団法人印旛郡市文化財センター
- 『油作1-Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 1994年 財団法人印旛郡市文化財センター
- 『印旛村道山田平賀線予定地内埋蔵文化財調査報告書』 1994年 財団法人印旛郡市文化財センター
- 『井ノ崎台遺跡Ⅱ』 1995年 財団法人印旛郡市文化財センター
- 『曾谷窪遺跡発掘調査報告書』 1995年 財団法人印旛郡市文化財センター
- 『平賀山ノ下10号墳発掘調査報告書』 1988年 財団法人印旛郡市文化財センター
- 『平賀細町遺跡』 1996年 財団法人印旛郡市文化財センター
- 『天神台遺跡』 2000年 財団法人印旛郡市文化財センター
- 『萩原長原遺跡 貉谷塚群』 2000年 財団法人印旛郡市文化財センター
- 『曾谷ノ窪瓦窯跡(第2地点)』 2002年 財団法人印旛郡市文化財センター
- 『前戸遺跡』 2005年 財団法人印旛郡市文化財センター
- 『細町遺跡 天神台遺跡』 2010年 財団法人印旛郡市文化財センター
- 『萩原遺跡』 2010年 財団法人印旛郡市文化財センター
- 『新井堀Ⅱ遺跡・前戸遺跡』 2004年 財団法人千葉県文化財センター
- 『曾谷窪遺跡』 2011年 財団法人千葉県教育振興財団
- 『新井堀Ⅰ遺跡・新井堀Ⅰ野馬土手』 2002年 財団法人千葉県文化財センター
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』 1973年 財団法人千葉県都市公社
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅸ』 1989年 財団法人千葉県文化財センター
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅹ』 1991年 財団法人印旛郡市文化財センター
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ』 1999年 財団法人千葉県文化財センター
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅤ』 2002年 財団法人千葉県文化財センター
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅧ』 2006年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅩ』 2008年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅩⅣ』 2011年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅩⅥ』 2012年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅩⅧ』 2013年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅩⅩ』 2014年 公益財団法人千葉県教育振興財団
- 『松崎地区内陸工業用地造成整備事業埋蔵文化財調査報告書1』 2003年 財団法人千葉県文化財センター
- 『松崎地区内陸工業用地造成整備事業埋蔵文化財調査報告書2』 2004年 財団法人千葉県文化財センター
- 『松崎地区内陸工業用地造成整備事業埋蔵文化財調査報告書3』 2004年 財団法人千葉県文化財センター
- 『松崎地区内陸工業用地造成整備事業埋蔵文化財調査報告書4』 2006年 財団法人千葉県教育振興財団
- 『松崎地区内陸工業用地造成整備事業埋蔵文化財調査報告書5』 2006年 財団法人千葉県教育振興財団

写 真 图 版



1.新井堀Ⅱ遺跡トレンチ掘削状況



2.新井堀Ⅱ遺跡1号トレンチ



3.新井堀Ⅱ遺跡2号トレンチ



4.新井堀Ⅱ遺跡3号トレンチ



5.新井堀Ⅱ遺跡4号トレンチ



6.新井堀Ⅱ遺跡5号トレンチ



7.新井堀Ⅱ遺跡6号トレンチ



8.和田谷第4遺跡トレンチ掘削状況



1.和田谷第4遺跡作業風景



2.和田谷第4遺跡1号トレンチ



3.和田谷第4遺跡2号トレンチ



4.和田谷第4遺跡3号トレンチ



5.和田谷第4遺跡4号トレンチ



6.和田谷第4遺跡5号トレンチ



7.和田谷第4遺跡6号トレンチ



8.和田谷第4遺跡埋戻し状況



1.手倉野馬堀トレンチ掘削状況



2.手倉野馬堀作業風景



3.手倉野馬堀1号トレンチ



4.手倉野馬堀2号トレンチ



5.手倉野馬堀3号トレンチ



6.手倉野馬堀4号トレンチ



7.手倉野馬堀5号トレンチ



8.手倉野馬堀6号トレンチ



1.手倉野馬堀7号トレンチ



2.手倉野馬堀8号トレンチ



3.手倉野馬堀9号トレンチ(1)



4.手倉野馬堀9号トレンチ(2)



5.手倉野馬堀埋戻し状況



6.古井戸後遺跡(第2地点)作業風景



7.古井戸後遺跡(第2地点)1号トレンチ



8.古井戸後遺跡(第2地点)2号トレンチ



1.古井戸後遺跡(第2地点) 3号トレンチ



2.古井戸後遺跡(第2地点) 4号トレンチ



3.古井戸後遺跡(第2地点) 5号トレンチ



4.古井戸後遺跡(第2地点) 6号トレンチ



5.古井戸後遺跡(第2地点) 埋戻し状況



6.木橋第1遺跡トレンチ掘削状況



7.木橋第1遺跡1号トレンチ



8.木橋第1遺跡2号トレンチ



1.木橋第1遺跡3号トレンチ



2.木橋第1遺跡4号トレンチ



3.木橋第1遺跡5号トレンチ



4.木橋第1遺跡6号トレンチ



5.木橋第1遺跡7号トレンチ



6.木橋第1遺跡埋戻し状況



7.井ノ崎台遺跡（第3地点）作業風景



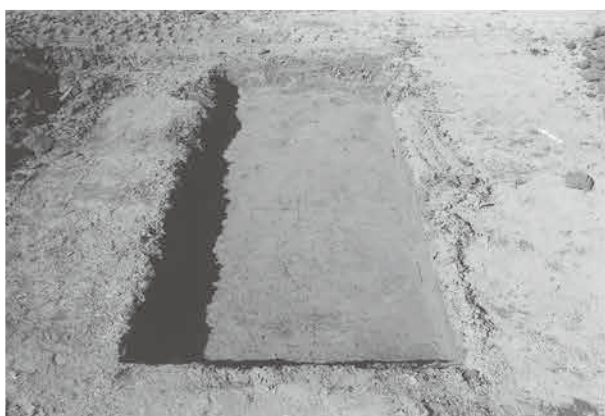
8.井ノ崎台遺跡（第3地点）1号トレンチ



1.井ノ崎台遺跡(第3地点) 2号トレンチ



2.井ノ崎台遺跡(第3地点) 3号トレンチ



3.井ノ崎台遺跡(第3地点) 4号トレンチ



4.井ノ崎台遺跡(第3地点) 5号トレンチ



5.井ノ崎台遺跡(第3地点) 6号トレンチ



6.井ノ崎台遺跡(第3地点) 埋戻し状況



7.大畑遺跡(第4地点) トレンチ掘削状況



8.大畑遺跡(第4地点) 作業風景



1.大畑遺跡（第4地点）1号トレンチ



2.大畑遺跡（第4地点）2号トレンチ



3.大畑遺跡（第4地点）3号トレンチ



4.大畑遺跡（第4地点）4号トレンチ



5.大畑遺跡（第4地点）5号トレンチ



6.大畑遺跡（第4地点）6号トレンチ



7.大畑遺跡（第4地点）埋戻し状況



8.南ノ内遺跡トレンチ掘削状況



1.南ノ内遺跡作業風景



2.南ノ内遺跡1号トレンチ



3.南ノ内遺跡2号トレンチ



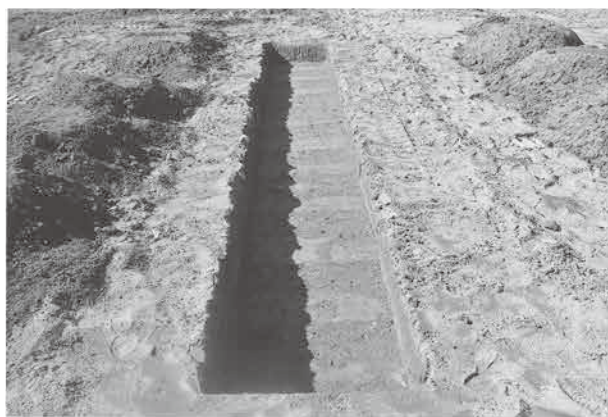
4.南ノ内遺跡3号トレンチ



5.南ノ内遺跡4号トレンチ



6.南ノ内遺跡5号トレンチ



7.南ノ内遺跡6号トレンチ



8.南ノ内遺跡7号トレンチ



1.南ノ内遺跡8号トレンチ



2.南ノ内遺跡埋戻し状況



3.古井戸後遺跡(第3地点) トレンチ掘削状況



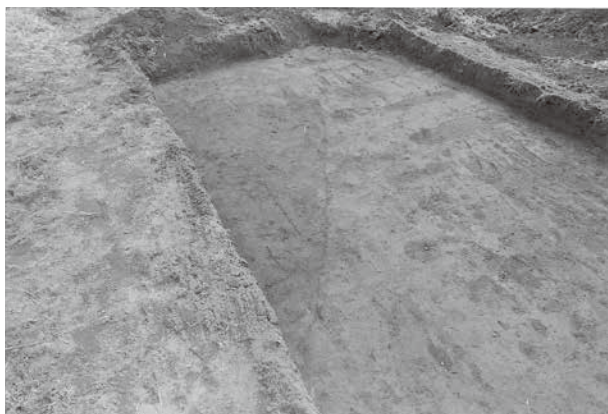
4.古井戸後遺跡(第3地点) 作業風景



5.古井戸後遺跡(第3地点) 1号トレンチ



6.古井戸後遺跡(第3地点) 2号トレンチ



7.古井戸後遺跡(第3地点) 2号トレンチ住居検出状況



8.古井戸後遺跡(第3地点) 3号トレンチ



1.古井戸後遺跡（第3地点）4号トレンチ



2.古井戸後遺跡（第3地点）5号トレンチ



3.古井戸後遺跡（第3地点）6号トレンチ



4.古井戸後遺跡（第3地点）7号トレンチ



5.古井戸後遺跡（第3地点）8号トレンチ



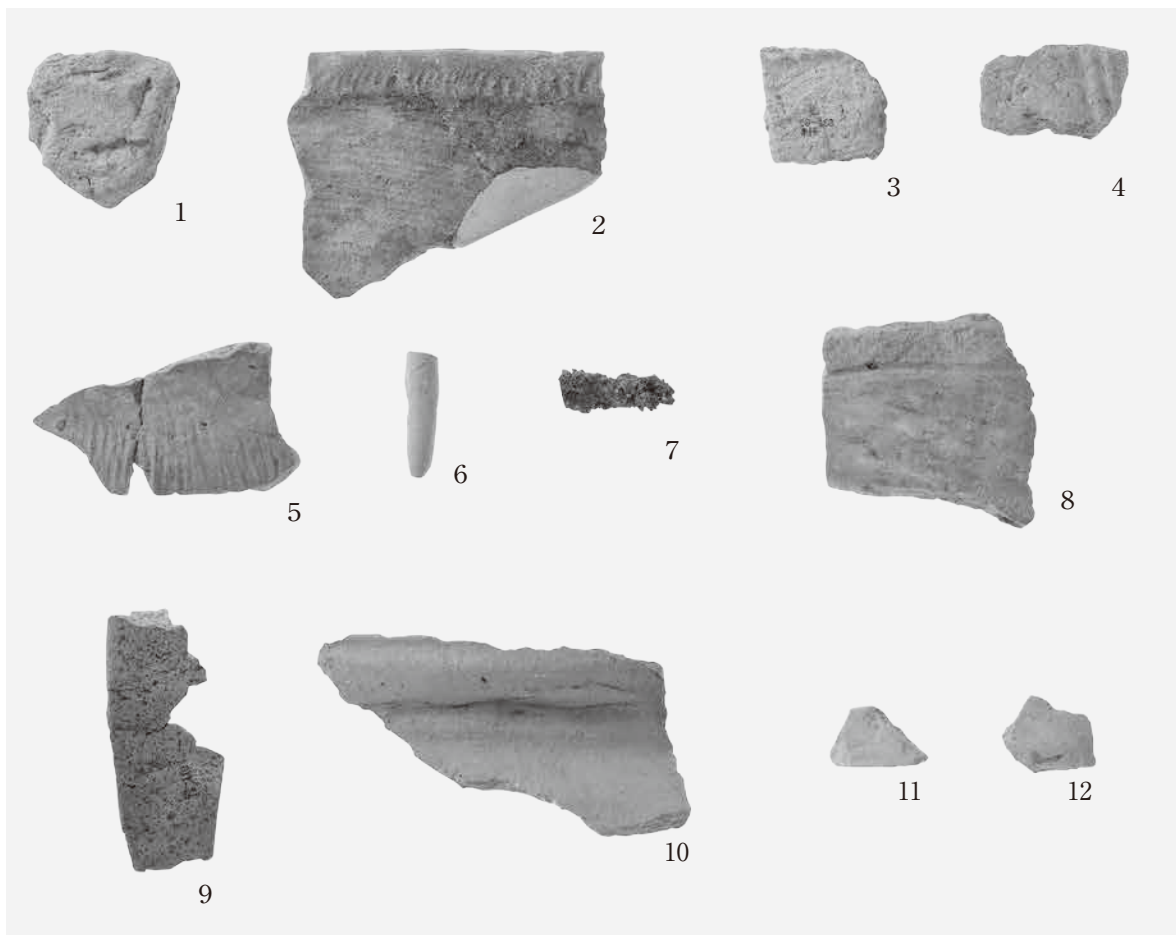
6.古井戸後遺跡（第3地点）9号トレンチ



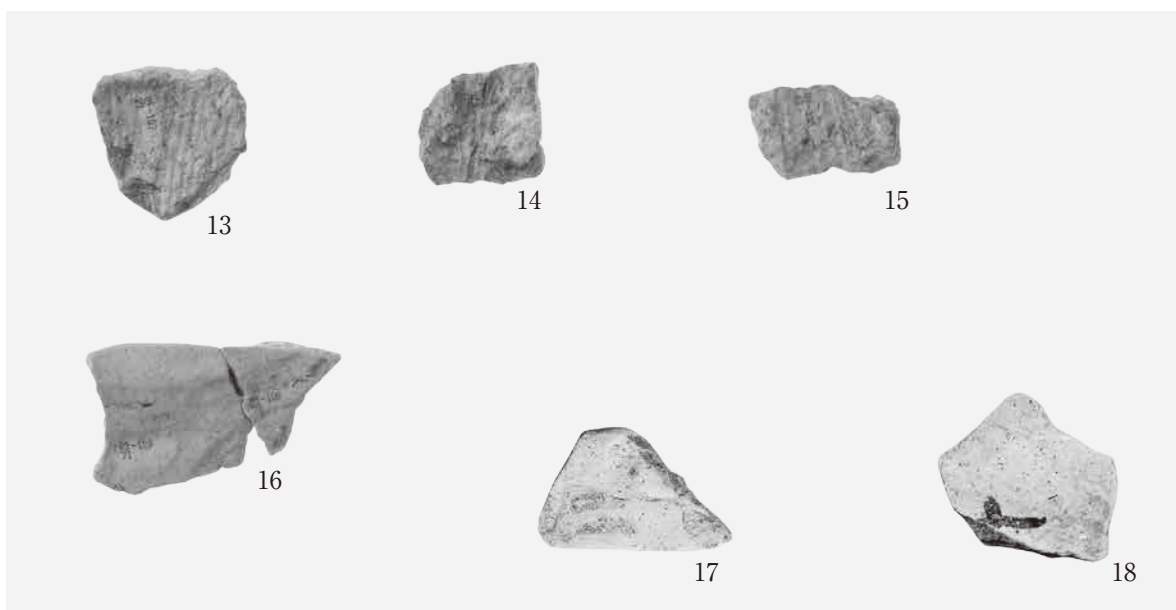
7.古井戸後遺跡（第3地点）10号トレンチ



8.古井戸後遺跡（第3地点）埋戻し状況



- | | | | | |
|----|--------------------|---------------------|----|--------------------------|
| 上段 | 1. 新井堀Ⅱ遺跡 1 | 7. 古井戸後遺跡 (第2地点) 2 | 下段 | 13. 新井堀Ⅱ遺跡 1 (裏) |
| | 2. 新井堀Ⅱ遺跡 2 | 8. 木橋第1遺跡 1 | | 14. 和田谷第4遺跡 1 (裏) |
| | 3. 和田谷第4遺跡 1 | 9. 大畑遺跡 (第4地点) 1 | | 15. 和田谷第4遺跡 2 (裏) |
| | 4. 和田谷第4遺跡 2 | 10. 古井戸後遺跡 (第3地点) 1 | | 16. 手倉野馬堀 5 (裏) |
| | 5. 手倉野馬堀 5 | 11. 古井戸後遺跡 (第3地点) 2 | | 17. 古井戸後遺跡 (第3地点) 2 (墨書) |
| | 6. 古井戸後遺跡 (第2地点) 1 | 12. 古井戸後遺跡 (第3地点) 3 | | 18. 古井戸後遺跡 (第3地点) 3 (墨書) |



各遺跡出土遺物 (1)



手倉野馬堀 1



手倉野馬堀 2



手倉野馬堀 3



手倉野馬堀 4

各遺跡出土遺物 (2)

報告書抄録

ふりがな	へいせいじゅうはちねんどいんざいしなしいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	平成28年度印西市内遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	喜多 裕明							
編集機関	公益財団法人 印旛郡市文化財センター							
編集機関所在地	〒285-0814 千葉県佐倉市春路1-1-4 TEL.043-484-0126							
発行年月日	2018年3月16日							
ふりがな 所収遺跡名	コード		ふりがな 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
	市町村	遺跡						
あらいぼりⅡいせき 新井堀Ⅱ遺跡	122331	09-107	ちばけんいんざいしそうふけあざあらいぼり230ばん 2のいちぶ 千葉県印西市草深字新井堀230番2の一部	35°47'21"	140°8'53"	2016年4月19日	36㎡/307.01㎡	個人住宅 建設
わだやつだいⅣいせき 和田谷第4遺跡	122331	09-108	ちばけんいんざいしはぎわらあざごんげんどう 2011ばん4のいちぶ 千葉県印西市萩原字権現堂2011番4の一部	35°47'36"	140°12'28"	2016年4月20日	19.5㎡/159.1㎡	農業用倉庫 建設
てくらのまほり 手倉野馬堀	122331	09-109	ちばけんいんざいしこうさいしんでん あざはらしんでん239ばん1、239ばん2 千葉県印西市高西新田字原新田239番1、239番2	35°48'43"	140°6'2"	2016年12月1日～ 2016年12月3日	157㎡/1,289㎡	自動車解体 施設建設
ふるいどうしろいせき (だい2ちてん) 古井戸後遺跡(第2地点)	122331	09-110	ちばけんいんざいしひらがあざ ふるいどうしろ843ばん2 千葉県印西市平賀字 古井戸後843番2	35°45'33"	140°14'46"	2016年12月5日	17㎡/90.25㎡	個人住宅 建設
きばしだいⅠいせき 木橋第1遺跡	122331	09-111	ちばけんいんざいしよしたかあざきばし462ばん 千葉県印西市吉高字木橋462番	35°47'2"	140°13'43"	2016年12月15日	71.5㎡/571㎡	携帯電話 無線基地局 建設
いのさきだいいいせき (だい3ちてん) 井ノ崎台遺跡(第3地点)	122331	09-112	ちばけんいんざいしひらがあざ いのさきだいいいせき822ばん1 千葉県印西市平賀字井ノ崎台822番1	35°45'45"	140°14'41"	2017年1月18日	22㎡/169㎡	個人住宅 建設
おおはたいせき (だい4ちてん) 大畑遺跡(第4地点)	122331	09-113	ちばけんいんざいしおもりあざもりうち 1970ばん2 千葉県印西市大森字森内1970番2	35°49'52"	140°8'11"	2017年1月24日	51㎡/233.50㎡	個人住宅 建設
みなみのうちいせき 南ノ内遺跡	122331	09-114	ちばけんいんざいしこうやあざみなみのうち 574ばんのいちぶ 千葉県印西市荒野字南ノ内574番の一部	35°47'45"	140°11'47"	2017年1月31日	49㎡/450.36㎡	個人住宅 建設
ふるいどうしろいせき (だい3ちてん) 古井戸後遺跡(第3地点)	122331	09-115	ちばけんいんざいしひらがあざふるいどうしろ 858ばん1、859ばん3 千葉県印西市平賀字古井戸後858番1、859番3	35°45'36"	140°14'45"	2017年3月1日	83.5㎡/491㎡	個人住宅 建設
所収遺跡名	種別		主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
あらいぼりⅡいせき 新井堀Ⅱ遺跡	包蔵地		奈良・平安時代	なし		縄文時代 土器(早期条痕文・安行1式)		
わだやつだいⅣいせき 和田谷第4遺跡	包蔵地		縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代	なし		縄文時代 土器(早期条痕文)		
てくらのまほり 手倉野馬堀	牧跡		奈良・平安時代、近世	奈良・平安時代 住居跡2軒、 近世 野馬堀1条		奈良・平安時代 土師器、須恵器		
ふるいどうしろいせき (だい2ちてん) 古井戸後遺跡(第2地点)	包蔵地・集落跡		古墳、奈良・平安時代	なし		奈良・平安時代 土師器、鉄製品、 土製品		
きばしだいⅠいせき 木橋第1遺跡	包蔵地		弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代	なし		縄文時代 土器(加曾利B式)、 奈良・平安時代 土師器		
いのさきだいいいせき (だい3ちてん) 井ノ崎台遺跡(第3地点)	集落跡		縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中近世	なし		奈良・平安時代 土師器、近世陶磁器		
おおはたいせき (だい4ちてん) 大畑遺跡(第4地点)	包蔵地・集落地		縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代	なし		奈良・平安時代 土師器、近世陶磁器、 砥石		
みなみのうちいせき 南ノ内遺跡	包蔵地		古墳、奈良・平安時代	なし		古墳時代 土師器、近世陶磁器		
ふるいどうしろいせき (だい3ちてん) 古井戸後遺跡(第3地点)	包蔵地・集落跡		古墳時代、奈良・平安時代	奈良・平安時代 住居跡1軒		奈良・平安時代 土師器、墨書土器		
要約								

平成28年度

印西市内遺跡発掘調査報告書

平成30年3月13日 印刷

平成30年3月16日 発行

編	集	公益財団法人印旛郡市文化財センター 千葉県佐倉市春路1丁目1番地4
発	行	印西市教育委員会 千葉県印西市大森2364-2
印	刷	株式会社 エリート情報社 [印刷出版局] 千葉県成田市東和田415-10